

参加者印象記



グループ I A 氏名 有馬 太陽

僕は先日 8 月 6 日(土)~7 日(日)にクロス・ウェーブ梅田であった日本薬学会第 6 回全国学生ワークショップに参加した。全国の薬学生が集まり、今後のニーズや薬剤師としてのプリフェッショナルリズムを考えた。僕は入学してからの 6 年間薬学について勉強してきてそれらは全て答えのあるものだった。今回のワークショップはニーズであったり、薬剤師としてのプロフェッショナルなど答えのないものを考えた。大学でこのようなことを考えることも、友達と意見を出し合うこともない僕にとってはとても有意義な時間となった。「答えのないものに答えを出してそれに責任を持つことがプロフェッショナル」と言ったタスクフォースの先生の言葉がとても印象に残っている。スペシャリストだけでなくプロフェッショナルでいなければならないと思った。

今回ワークショップに参加してたくさんの仲間ができていろんな考え方を聞くことができ、今後自分が薬剤師としてどう生きていくかが参加する前に比べてより鮮明になった。

ワークショップでは多くの仲間ができて、その仲間たちと今後 10 年、20 年先の薬学領域を引っ張っていかなければならないと思った。

グループ I A 氏名 大里 隆二

今回のワークショップは、将来を考える非常に大切な 1 泊 2 日になったと思います。また、北は北海道から南は沖縄までたくさんの薬学生と関わったことは学生時代の良い思い出になりました。

私はこのワークショップに参加するまでは、正直薬剤師になった後どのようにしたいとかこれをしてみたいという理想のようなものがあまり無く、将来に対してイメージがつかめずにおりました。しかしワークショップに参加してみて、参加している皆さんが将来に対してとても意欲的で、理想もしっかり描けていてすごいなと思うと同時に、私自身も将来に向けての道が少し見えてきたような気がしました。

今回特に印象に残っているのは、「5 年後 10 年後、医療現場において機械化が進み薬剤師が出来ることは何か。出来る事の 1 つに患者さんに寄り添う心を持つこと」ということです。今まで将来専門資格はどうしようとかスキルアップに向けて何をしていこう等、自分本意の考えばかりが浮かび、患者さんを第一に考えた発想はなかったことに気付かされました。1 番に考えなければならないことはその部分なのかなと学びました。

今回の経験を様々な分野で発揮できればと思います。

グループ I A 氏名 岡本 敬介

各大学の同期たちと討論し、お互いの意見を交換するという機会は貴重なものであり、今回日本薬学会第 6 回学生ワークショップに参加させていただいたことは、将来、自分の薬剤師としての人生に必ずプラスになると感じています。

未来を支える薬剤師として掲げた行動宣言と行動計画は同期たちそれぞれ別の考えを持っていました。しかし、それぞれ異なる考え方を持つ同期たちと、1 泊 2 日のワークショップを通して議題に対して討論し、1 つの答えを導き出すことができました。これはすごいことだと思います。現在の医療では、チーム医療のために他職種との連携が必要不可欠です。それぞれの

役割を担う医療従事者が臨床上の問題に対して様々な観点から意見を出し、1つの答えにまともていく。今回のワークショップでの経験がチーム医療や他職種連携に必ず生きてくると思っています。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者の皆様、タスクフォースの先生・先輩方、そして同期たちに心よりお礼申し上げます。

グループIA 氏名 土方 舞子

本ワークを通して参加前の自らには無い新たな知見や価値観を養う大変貴重な機会となった。第一に薬剤師として社会貢献する場は医療機関のみならず公的機関、企業と多種多様に渡ることを改めて肌で感じたことが挙げられる。自らの交友関係の間柄では医療機関に就職する方が圧倒多数であり、医療機関に就職することが薬剤師として患者様のために貢献できる場であると考えていた。今回のワークに参加された他大学の学生の中には医薬品医療機器総合機構や都道府県各役所などの公的機関、製薬企業の研究職など各企業へ就職される方も見受けられた。患者様と直接関わる医療機関のみが薬剤師の活躍の場ではなく、社会という大きな輪の中で患者様のことを考え、薬剤師としての専門性を活かし社会貢献する場を設けることもまた大切であると学び自身の視野を大きく広げることができた。

第二にワークに参加された方々との意見交換を行い、相手方の主張も聞き入れながら自らの考えも的確に伝える能力もまた大切であると学んだ。

今後、患者様と直接関わる中でただ患者様の主張を聞き入れるだけでは患者様のみならず医療従事者からの信頼を得ることも困難であると考えた。このワークを通して様々な意見が出る中で相手の意見を尊重しながら自身の意見を伝える大切さを実感すると共に、今後薬剤師として歩んでいく中で活用していく決心となった。

本ワークを通して習得した知見や経験を元に自らの行動宣言・行動目標を掲げ、今般の社会、未来への社会貢献を目指して日々精進していきたい。

グループIA 氏名 三木 静香

日本薬学会第6回学生ワークショップに参加し、全国の薬学部の学生と交流することで本当に貴重な経験をする事が出来たと感じています。今回のように他大学の薬学生と交流する機会は初めてでした。また私の大学では病院や薬局に就職する学生がほとんどであり、企業、行政に就職する人も含めたグループでの討論は、多様な視点から多くの意見を言い合うことが出来て、非常に有意義なものとなりました。

ワークショップを通して最も印象的なのは、何度かグループワーク後に行った総合討論において他の学生が、大勢の学生の前であっても堂々と意見を発する姿です。私はこれまで人前で話すことに対して苦手意識を持っており、こうした姿を見て克服したいと考えたからです。ほぼ初対面の先生、学生の中でも自信を持って自らの考えを伝えたり、質問に答えたりする様子はすごく格好よく、感動しました。今回出会った学生のようになれるように、この思いを大切にに残された学生生活を充実させていきたいです。

2日間多くの刺激を与えてくれた他大学の学生や、こうした機会を与えてくださった先生方から心から感謝しております。

グループ I A 氏名 水野 稜子

まず、参加者の皆様が薬剤師に対してはっきりとしたビジョンを持っていることに圧倒され、自分の考えの甘さを実感しました。討論の流れについて行けず意見を聞くだけになったり、考えがまとまらず自分でも何が言いたいのか分からなくなったりしました。しかし、グループのメンバーが「つまりこういうことだね」などとフォローしてくださったので、有意義な討論を進め、「社会のニーズに応えられるプロフェッショナルとしての薬剤師」について深く考えることができました。

また、他大学とのカリキュラムの違いや、個々の経験を共有することで、大学で勉強しているだけでは絶対に分からない薬学教育の現状と課題に気づくことができました。

何より、日本中にこれから先も長く付き合える友人がたくさんできたことが一番の収穫です。マイクを持ち方がカラオケみたいだとツッコんでくれた人達も、今回お話できなかった方々も、こうしてつながりを持つことができたのも何かの縁だと思いますので、またどこかでお会いした際はよろしくお願い致します。

2日間、ありがとうございました。

グループ I A 氏名 柚木崎 美織

このワークショップに参加させていただき、普段関わることのできない全国の薬学生と2日間非常に濃い時間を過ごすことが出来ました。今回のテーマは「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナリズムを考える～」ということで、社会のニーズについて非常に深く考えることができたように思います。学校生活の中ではどうしても薬剤師目線で考えることが多く、薬剤師としてあれをやりたいこれをやりたいと思ってしまいがちなので、社会が私達に求めているものは何なのかというお題にはとても苦戦してしまいました。しかしながら班のメンバーと意見を出し合い議論を重ねていくうちにそれぞれの視野が少しずつ広がり、結果として有意義で刺激的な議論ができたと思います。今回の経験を糧に、春からは社会人として志高く努力していこうと思います。

最後になりますが、今回このような素晴らしい会を企画、運営してくださった関係者の皆さま、そして参加者、特に2日間のほとんどを共にした I A のメンバーに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

グループ I A 氏名 吉川 智理

今回のワークショップに参加し、全国の薬学生と交流する中で、とても新鮮で刺激的な2日間となりました。薬学生の進路は、薬剤師だけでなく、公務員や企業への就職、さらには進学など、多様であり、薬剤師には薬学の知識を生かして活躍する場がたくさんあることを改めて実感しました。また今回のワークショップを通して、全国にはそれぞれの将来の理想像を目指している薬学生が数多くいることを再認識でき、自分の考えを深めることができました。

今回のワークショップでは、薬剤師のプロフェッショナリズムやニーズについて考えるなど、薬剤師の将来のことを考える内容が多かったです。最初の world café での話し合いにおいて、学生によって実務実習の内容や感じ方が違うことを知りました。総合討論では、「実務実習でこんなことをやってみたかった」という意見交換がされましたが、それだけでなく、現場の薬剤

師の先生や大学の先生方を交えて、具体的な議論をする場があればより充実したワークショップになったのではないかという印象を受けました。実務実習を終えた6年生の意見と現場の意見を取り入れる機会をこのワークショップでもつことにより、今後の実務実習がより良くなるのではないか、そのような場としてもこのワークショップが必要なのではないかと思いました。

グループ I B 氏名 上嶋 仁美

「社会が私たちに求めているものは何か? ～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考える～」というテーマで、全国から集まった薬学生たちと話し合ったこの2日間は、私にとって自分自身を見つめ直すいい機会になり、非常に充実したものでした。ワークショップを通して、同期である薬学生たちが、こんなにも薬剤師の将来について深く考え、行動しているということに驚くと同時に、とてもいい刺激になりました。今までは、薬剤師になれば自分はこんなことがしたいという思いが強かったのですが、10～20年後の社会のニーズを考えることにより、薬剤師としての本当の働き方・あるべき姿、ヒトである薬剤師にしかできないことは何か、ということについて真剣に考えさせられました。「スペシャリスト」かつ「プロフェッショナル」である薬剤師を目指して、日々精進していきたいと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会関係者の皆様、タスクフォースの先生方、卒業生の方々に心より御礼申し上げます。また、この2日間で出会い、共に話し合った友人たちに感謝します。本当にありがとうございました。

グループ I B 氏名 内田 泰弘

日本薬学会第六回全国学生ワークショップでは「社会が私たちに求めているものは何か? ～未来を支える薬剤師としてプロフェッショナルリズムを考える～」というテーマのもと、二日間討論を行いました。多様な経験を持つ他大学の学生との出会い、交流は非常に刺激的であり有意義な時間を過ごすことが出来たと感じています。ワークショップにおいて異なる将来像を描く他学生との意見交換を楽しみしていました。私は来年度より製薬企業で働く予定ですが、同じグループの学生は薬局、病院、行政など進路は様々でした。討論を通して描く将来像は異なりますが、「患者さんを救う存在になりたい」、「日本の医療に貢献したい」といった志はみんな同じであることに気がきました。

討論の多くは薬剤師への社会からのニーズに重点が置かれていました。グループメンバーと議論を重ねる内に、薬剤師としてプロフェッショナルリズムを持続するにはニーズを探し、それに応えるだけでは不十分で、常に医療環境の変化を先見し未来のニーズを予測し、それに向けて準備する姿勢が大切だと感じました。

ワークショップで貴重な時間を共有できた先生方、他大学の学生に感謝しています。また今回受けた刺激、学び得た知識を活かし「新薬で患者さんに希望を与える」という夢の実現に向け一層精進していきたい想いです。

グループ I B 氏名 岡本 まとか

はじめは、「社会が私たちに求めているものは何か? ～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考える～」と言う普段の大学生活ではまず話すことのないテーマで初

対面の人達と議論できるのか心配でした。しかし、いざ始まると白熱した議論が展開され、とてもワクワクしながら議論に参加することができました。

また、日頃から考えていた薬剤師の職能(オーバーラップや処方権の獲得)について、議題に上がることがありましたが、色々な方の意見を学生のうちに聞くことが出来たことも良い収穫でした。他の場面でも、沢山の価値観に触れることで、新しい気付きもあり大変有意義でした。

WSに参加し、薬剤師を取り巻く環境は日々変化していることを再認識しましたが、臨床の現場に出たらその変化に恐れることなく、患者さんをはじめとする社会全体のニーズを把握し、それに応えるマインドを常に持ち続けたいと思います。

最後に、WS開催に携わった関係者の皆様、そしてIB班のメンバーをはじめとした6年生の参加者の皆さん、本当に有難うございました。実り多い2日間でした。今後もこの全国学生WSがより良いものとなり、未来の後輩達に繋がって行く事を心から願っております。

グループ I B 氏名 門脇 洵亮

伝えたい事はたくさんあるのですが、とりあえず今回のワークショップに参加できて本当によかったです。自分の学校以外の人と話すこと自体がほぼ皆無なまま6年間を過ごしてきたので、このように同じ薬剤師という目標を持った人たちと話すことができるというだけでも感激でした。それに加えて10年後の話なんて突拍子もないことを本気で話し合うなんて日常生活では絶対にできないのですごく貴重な体験をさせていただいたと実感しています。

少し大げさですがこの二日間で考えたことや感じたことはきっと今後生きていく上でかけがえのないものとなりました。特に、今回参加していた皆さまと自分との論理的思考能力や知識量の深さ、その知識を使った応用力は本当に悔しいですが今後必死になって努力しないと埋まらないと痛感しました。この悔しさはいつまでも忘れることはできないでしょう。

今回出会ったたくさんの人たちの仲間であり、ライバルとなれるよう精進するとともにご活躍をお祈り申し上げます。

グループ I B 氏名 榊原 綾海

日本薬学会第6回全国学生ワークショップは全国の同期達とたくさん話をする中で、多くの刺激を受けた濃い二日間でした。ワークショップでは10年後、20年後に薬剤師に求められる社会のニーズを考える機会が多くありました。10年後、20年後を考えると、今までは機械化が現在よりも進んだ結果、薬剤師としての業務が減るのではないかと考えることが多かったのですが、班での話し合いでは機械化が進むからこそ薬剤師が人しかできないことに割く時間や人員が増えるのではないかと意見でした。患者さんも薬剤師も人だからこそ今後も社会のニーズとして薬剤師に求められるものは多くあると理解することができました。

また、ワークショップに参加して話し合いをする中で同期達が様々な方面にアンテナを高く張っていると感じました。同時に自分が考えていることを他人に説明する力を持っていることを実感しました。今後自分も視野を広く持ち積極的に言葉にすることを行っていきたいと思います。

最後になりましたが、今回ワークショップへの参加という貴重な機会をいただきありがとうございます。

ございました。また、開催に向けてご尽力いただきました関係者の皆様、ならびに 2 日間共に過ごした同期の皆様に感謝いたします。

グループ I B 氏名 羽野 彰

今回、日本薬学会第 6 回全国学生ワークショップに参加させていただき、学生生活においてとても有意義な 2 日間を過ごすことができました。全国の各大学の人たちと 1 つのことについて話し合い、作業をすることによって、同じ薬学部で 6 年生であっても学んできた環境の違い等で、様々な考え方や意見があるということにとっても驚き、いい刺激を受けました。

また、今回のワークショップを通して、今まであまり考えたことのなかった薬剤師に求められる社会のニーズについて、医療人におけるプロフェッショナリズムについて等、それぞれ深く考え自分たちの答えを出せたことは、今後薬剤師となる自分にとって大変貴重な経験になりました。

今回建てた行動宣言、行動計画を胸に刻み、自分の理想とする薬剤師となれるよう、今後の学生生活を過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さった大学の先生、日本薬学会の関係者の皆様及びタスクフォースの先生方・先輩方に心より感謝申し上げます。

グループ I B 氏名 藤原 桜子

今回のワークショップを通して、全国の薬学部同期生と議論することができ、とても刺激ある 2 日間を過ごすことができました。ワークショップのテーマである「薬剤師としてのプロフェッショナリズム」について“社会が求めるニーズ”を“ALL 薬剤師の立場”から考えることができ、自分の働きがどのようにして未来に繋がるのか、改めて考えることができました。また、活躍の場が広くある薬剤師だからこそ、各々が連携し、患者さんだけでなく全ての人々の生活や笑顔を支えることができるという可能性を感じました。今回のワークショップは、私自身がこれから社会を創っていく一員になるうえで、大きな原動力となる貴重な経験になりました。

このワークショップを通して感じたこと、学んだことを、残りの学生生活、そしてこれからの社会人生活で活かすとともに、大学の同期や後輩へと伝えていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました大学の先生、日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方、先輩方ならびに各大学の学生の皆様に心より御礼申し上げます。

グループ I B 氏名 湯川 稜汰

この度第 6 回全国学生 WS に参加させていただき、2 日間を通して多くのことに気付くことが出来ました。今までこのように全国の薬学部生と意見交換をしたことがなかったのですが、私にはない目線からの意見にたくさん触れることができ、自分なり私たちなりの答えを導くことが出来ました。ひとりひとりがきちんと自分の考えを持ち、議論することが出来たからこそ結果だと思います。私たちの行動宣言に向かって、全国の ALL 薬剤師が行動していくことが出来れば“プロフェッショナル”としてさらに社会に認められていくのではないかと感じま

した。また、今回の WS に参加していたすべての学生に、このプロフェッショナリズムを感じることができ、全国に同じ志を持った仲間がいることを本当に心強く思いました。私も ALL 薬剤師のひとりとして、行動宣言を実現できるよう全力で邁進していきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を設けてくださった関係者の皆様、共に頑張った参加者の皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

グループ I C 氏名 伊藤 智平

良いワークショップであり、参加してよかったというのが素直な感想である。2 日間行動を共にするだけでこれほど強い仲間意識ができるとは思わなかったし、高い志を持ち支えあい励ましあえる仲間が全国にいるということを知れたのはよかった。将来何かを成そうとするとき、それが正しいことであればともに動いてくれる人が必ずいるはずだと思えることができた。また、薬学教育を担う先生方と近い距離で話し合えたことも貴重であった。普段話をする機会のない先生に、薬剤師としての矜持や倫理観などのお話をしていただき胸に響くものがあった。

今回のワークショップでは社会のニーズ、薬剤師が果たすべき社会的使命とは何かというテーマについて話をする機会が多かったが、実経験に乏しいためかどこかで聞いた話を口にするしかできなかった。それはそうだろうと思う。足元を疎かにすることなく今はしっかり勉強することが大事であると感じた。

最後に、共に議論した同じグループの人達やお話する機会のあった方々、またどこかでお会いしましょう、楽しかったです。

グループ I C 氏名 梶野 愛

今回のワークショップでは、これからの医療とともに考え、支えるたくさんの仲間に出会い、議論することができました。本当に恵まれた楽しい 2 日間だったと思います。

プログラムでは「求められるニーズ」と「プロフェッショナリズム」という大きなテーマを与えられ議論しましたが、答えを出すことにとっても苦労しました。しかし、班やチームで真剣に考え、思いを共有したことで自分なりの将来像への考えを深めると同時に、同じ薬剤師を志しながらも少しずつ異なる考えにたくさん触れる貴重な経験ができました。薬剤師という職業についてより広い視野を持つとともに考えを深められたと思います。

薬剤師は社会の中でいろいろな役割を担う職業です。薬剤師として「求められるニーズ」を常に探し、「プロフェッショナル」として社会に貢献できるよう、今回出会った同期を始め、たくさんの人との関わりを大切にしながら日々努力していきたいと思います。

最後に、今回このような貴重な機会を与えてくださったたくさんの方々に深く感謝します。ありがとうございました。

グループ I C 氏名 佐飛 慎大

今回のワークショップでは、周りの人の意見の大切さを痛感することができました。各セッションで個人の意見から様々な意見が飛び交い、それらを統合していくことで、素晴らしいプロダクトが作成でき、非常に「やりがい」を感じることができたためです。また、今回のワークショップで仲間と一緒に未来の薬剤師のニーズを考えていくうちに、自分自身の薬剤師像も

一緒に考えることができ、これからもっと具体的な薬剤師像を考えていきたいと思いました。今回のワークショップでの経験を活かし、薬剤師としてしっかりと目標をたて、社会のニーズに応えられるよう頑張っていきたいです。

グループ I C 氏名 島貫 成美

今回のこのワークショップへの参加はとても貴重で忘れられない経験となりました。全国の薬学生との出会いは今後の財産になると思うし、自分の中にはなかった独自の考えをたくさん聞けたことは刺激となり、視野が広がりました。

中でも印象的だったのは木下先生の講演の中にあった、人生の目的の一つは“他の人の人生に意味のある貢献をすることだ”という言葉です。今までは薬剤師の仕事として医療について考えていた気がしますが、患者さんにとって医療は人生の一つであり、私たちがそこにプロフェッショナルリズムを持って関わり、薬剤師としてだけでなく、人として貢献することができるという考えを持つことができました。これを班の人達と社会人となる前に共有できたことは大きいと思います。また、この2日間の討議を通して自分がどういった薬剤師になりたいか、そのために何をしたらよいのか、目標を見つけ、明確にできたのも今後の成長につながるのではないかと思います。

最後に、このような機会を設けて下さった日本薬学会はじめ関係者の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループ I C 氏名 瑞慶覧 長海

この2日間は、多くの仲間と討論、意見交換し、食事も含めて有意義な時間を過ごせた。

プロフェッショナルである薬剤師には、知識、技能、態度に加えて、求められているニーズをしっかりと把握し、それに応えていくことが必要であると身をもって感じた。また、日頃の学生生活では、求められているニーズをあまり意識していないことを実感した良い機会となった。

また、私が診療所を受診したときの経験から、木下先生の講演ではサイエンス（EBM）とともに、医療における物語（NBM）の必要性に共感した。そして、私の目指す薬剤師像の1つでもある「患者様とコミュニケーションが取れ、EBM と NBM の両方を実施でき、患者様に寄り添った医療を行う」を実現したいと改めて思った。

さらに、ある SGD や討論では、機械化という議題が上がった。そのことについて、私は、鑑査、計数調剤などのいわゆる調剤など、正確性が求められるものに対しての機械化は大変有用だと思うが、共感や声掛けなどの相手を思っている行為は機械ではどうしてもカバーできないことだと思っている。そうしたことを患者様や地域の方々に行うことも医療者の役割の1つだと思う。

グループ I C 氏名 竹内 隆馬

今回の機会を通じて、私の考えに対する周りの方々の意見を頂くことが出来て私の医療に対する熱意が向上した二日間となりました。

特に印象に残った点を二点挙げます。

一点目が、総合討論の際に私が投げかけた質問に対して、議論が終わった後も他大学の学生や

卒業生の先輩方が「それは本当に大事だね」と声をかけてくださった事です。皆に質問するか迷いましたが、実際質問して本当に良かったと感じた瞬間であり、皆の前で自分の考えを述べる事を今後も積極的に行おうと改めて感じたからです。二点目は、「社会のニーズは私たちが生み出していかなければならない」という意見を頂いたことです。それは、今後社会に出てニーズを考える際、社会の流れに合わせるだけでなく新しく何を生み出せば満足していただけるかを考えることもとても重要であると感じた瞬間でした。これら以外の多数の印象に残ったことを忘れることなく、これからの行動に活かしたいと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けてくださった日本薬学会の皆様をはじめ、今回のワークショップ開催に尽力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

グループ I C 氏名 安平 梨加

短い期間でしたが、この度は貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。全国の薬学生と意見を交換できたワークショップは、大変刺激ある2日間でした。今回のワークショップのテーマが、「社会が私たちに求めているものは何か？」ということでしたが、学内で同じテーマでディスカッションをしても、6年間同じ環境で過ごしてきた仲間とでは、おそらく今回のような幅広い意見は出てこなかったかもしれないと感じています。違う大学で違った環境で過ごしてきた人たちが集まったからこそだと思います。しかし、どの大学の学生も薬学部、薬剤師をより高めていきたいという気持ちに違いはなく、それぞれの考えがしっかりとしていました。私は積極的に自分の意見を発表するのがあまり得意ではなかったため、みんなの発表する姿勢がとてもかっこよく、私も頑張らないといけな、と励みになりました。まだまだ自分の世界は小さく未熟であったこと、まわりを見れば高い志を持った頼りになる同期がいることに気づけたことが今回の大きな収穫です。自分の目指す薬剤師像について、改めて考えることのできたワークショップを今度も是非続けてほしいと思います。

グループ I C 氏名 吉村 美穂

全国学生ワークショップに参加して、有意義で楽しい2日間を過ごすことが出来ました。当初は自分だけ年齢が違うため、皆とうまく交流が出来るか、またワークショップを行う際にはどのような役割が求められるのか等、不安のまま会場に向かいました。

しかし実際にワークショップを経験してみると、皆が将来についての意見を述べ、同時に他人の意見も積極的に聞いていく姿勢に驚きました。そして当初思っていた不安等もなくワークショップに参加することが出来ました。グループワークを少人数で行うことで、気兼ねなく意見を述べる事が可能になったのだと思います。

今回は20年後に薬剤師に求められるニーズは何かというテーマでワークショップを行いました。こういった機会がないと20年後についてじっくりと考えることが恥ずかしななかったもので、とても勉強になりました。また、他の学生が20年後についてどのようなビジョンを持っているのかも知ることが出来たことが良かったです。

日本全国の学生と交流が出来る機会の中々ないので、とても貴重で少し有益だと感じましたので、今後とも是非続けて頂きたいと思います。

グループⅡA 氏名 青木 公香

2 日間にわたるワークショップを通じて、薬剤師としてのプロフェッショナリズムとは何かについて、社会が求めるニーズや将来どのような薬剤師になりたいのかを改めて考える貴重な体験となりました。他大学の学生と討論を交わす中で、自分自身とは違った考え方や価値観を知ることができ、視野を広げて様々な視点からアプローチしていくことの大切さを学びました。今回のワークショップで初めて、World Cafe 方式、KJ 法、寸劇で表現する方法に取り組むことができグループの仲間と共に楽しみながら、討論することができ充実した 2 日間を過ごすことができました。目指す薬剤師像や活躍する場が違っても、同じ志を持つ仲間に出会えたことを誇りに思います。

今後、移り変わる社会のニーズに敏感になり、薬剤師として何ができるのかを常に考え同じ仲間とともに共有し合い、模索していくことが重要であると感じました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会をはじめとする関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

グループⅡA 氏名 秋山 智

日本薬学会第 6 回全国学生ワークショップ「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考える～」に参加した。World café から始まり KJ 法、寸劇など、あらゆる角度からディスカッションすることで将来の薬剤師像について具体的に議論することができた。寸劇は少し恥ずかしかったが、グループの皆で一つの物を作り上げていくことの楽しさや面白さを感じることができた。行動宣言では、「グローバル社会における ALL 市民のために」様々な職種の薬剤師を想定した。全国の薬学生が集まることで、多くの意見が飛び交い、白熱した討論となった。希望職種によっても譲れない部分が違うことで、より熱い討論になったが、どの意見にも薬剤師としての責任や信頼などが含まれていた。社会的にも薬剤師が及ぼす責任や信頼は大きい、皆それらを自覚しており、改めて自分の気持ちの中でも再認識することができた。残り少ない学生生活の中でこのような機会に参加でき貴重な経験となった。最後になりますが、大変貴重な機会を与えて下さった日本薬学会の方、関係各所の方、諸先輩方に厚く御礼申し上げます。

グループⅡA 氏名 大平 奈穂

つい先ほどまで顔も名前も知らなかった人たちとディスカッションを重ね、次第に仲間意識が芽生えるというのは新鮮な感覚で、あっという間の 2 日間でした。また、班のメンバーの進路が様々であったこともあり、いろんな視点の考えを聞くことができたので、自分の視野が広がったようにも感じています。この視野の広がりを感じた理由の 1 つとして、「教育する立場にある」という自覚をもったことがあります。この教育とは、将来の後輩薬剤師や薬学生への教育はもちろん、教育というと少しニュアンスが変わるかもしれませんが、患者さんや市民に対しての情報提供なども含んでいます。これまでの私は恥ずかしながら、自己研鑽を続けて自分が成長することが一番大切だと思っていました。しかし、今回のワークショップを通して、自己研鑽で得られたものを(教育に)どう活かすかまで考えなければと思うようになりました。加えて、今回の経験を同じ大学の同級生に伝えることも大切だとも思いました。このほかにも

感じたこと、考えさせられたことが多々あり、未熟な文章力でうまく表現できていないかもしれませんが、とにかく自分にとって有意義で充実した2日間でありました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を提供していただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

グループⅡA 氏名 川上 智恵子

今回薬学生ワークショップに参加させていただき、非常に良い経験をさせていただきました。私は“将来のこと”を考えると大学を卒業してすぐのことばかり考えがちでしたが、10、20年後の自分を想像したときに、今の考え方や行動力では未熟なところばかりで、社会のニーズに応えることができないと感じました。しかし、ディスカッションで意見を言い合う際、学校では薬局、病院薬剤師志望の学生が多いため、学校では得られない企業、行政、指導者側の立場目線の意見を聞くことができ、自分の考え方がワークショップ参加前よりも随分広がりました。将来、医療の現場でも様々なロボットなどが活躍すると予想されており、生身の薬剤師でなければならないことって何だろうかと考えた際、人対人の関係だからこそ慰めや励まし、感動を患者さんに提供できるのではないだろうかと考えることができました。人の痛みや悲しさ、喜びのわかる薬剤師を目指そうと改めて感じることができました。将来、薬学生ワークショップ6回生が集まる際は、皆さんがどのような薬剤師でどのような現場で活躍されているか非常に楽しみです。本当にありがとうございました。

グループⅡA 氏名 田野邊 竜平

まず感想からになりますが、「学びの多い刺激的な二日間になった」「参加してよかった」と梅田の会場を後にしたことを、今でもはっきりと覚えています。今回のWSに参加するにあたり、同世代の皆さんがどのような価値観を持って学びそれを今後どのように活かしていくのか知りたい、学生だけでなくOB・OGや教員の方々と様々な意見交換をしたいと考えていました。二日間を通して幅広い考え方のもとたくさんの意見を目の当たりにし、私も多くの意見を述べることができ、非常に良い経験になりました。

また、この二日間の経験をこの場限りにせず、大学に持ち帰って友人と共有するなど積極的に情報交換し、より多くの学生が継続的に薬剤師のプロフェッショナリズムについて考え続ける必要があると思います。そうすることで一人一人がより高い能力を引き出し、視野を広げ、様々なプロフェッショナルとして貢献することが可能になるからです。

最後になりましたが、このような貴重な場をご提供くださいましたWS運営関係者の皆様に深く御礼申し上げます。また、楽しく議論することができたⅡAの皆さんにも感謝しています。本当にありがとうございました。

グループⅡA 氏名 野村 実紀

このWSに参加する機会をいただけたことに、非常に感謝しています。参加する前は、このWSに参加する学生の方々は、卒業後に臨床薬剤師として働く方が多いのではないかと考えており、卒業後の進路が製薬メーカーである私は今回のテーマである「薬剤師のプロフェッショナリズム」についての討議にどこまで参加できるだろうかと不安に感じて

いました。しかし、第1部の World Café では、自己紹介や自己開示をする機会があり、それによって打ち解けたメンバーと、第2部以降でディスカッションを重ねていったため、臆することなく、自分の考えを率直に発することができました。

また、私が所属していたグループは、卒業後の進路が誰一人としてかぶることなく、それぞれが将来の仕事に対して強い信念を持っていたため、ディスカッションを通してそれぞれの考えに触れることで、非常に強い刺激を受けました。所属する大学を飛び出し、1泊2日という短い期間でも、全国の学生の皆さんと深く関わることができるこのWSは非常に有意義なものであると、今では胸を張って言うことができます。

改めまして、このWSの開催に携わって下さった方々、そして参加者の皆様に深くお礼申し上げます。

グループⅡA 氏名 元井 優太郎

今回、ワークショップにて多種多様な目標、信念を持つ学生たちと活発な討論ができ、大学内にいただけでは得られない強い刺激を受けました。

大阪へ発つ前に、自信をもって発言しろ、自分の意見をぶつけて来い、と叱咤されてから今回参加しました。初対面の相手でも自分をぶつけることができ、ワークショップを通して人として成長できたと感じます。

2日間を通し、この先薬剤師が求められるニーズ、それらに応えている自分たちの将来像、そしてプロフェッショナリズムについて考えました。特に印象に残った論点は、ロボットやAIの導入がなされた未来における薬剤師、医療職の役割についてです。患者個々の感情や背景の把握は機械では難しいであろうという意見が多く出ていました。裏を返せば、今後医療人は患者や市民、個々に合わせた医療の提供ができなくてはならないことを示していると感じました。

今回できた仲間にまたいつの日か出会うとき、胸を張っていられるよう日々研鑽を続けます！

最後になりますが、このような機会を与えてくださった先生方、参加した学生の皆様に心より感謝申し上げます。

グループⅡA 氏名 横須賀 祐紀

第6回薬学会ワークショップに参加し、全国の薬学生と議論した2日間は大変貴重な体験になりました。2日間のワークショップを通じて私は10、20年後の薬剤師について全国の薬学部から集まった同期の方々との議論や交流により幅広い価値観に触れ深く考えたことが最も印象的でした。今まで自身の10年後のキャリアプランは思い描いたことは多々ありましたが、薬剤師の10年後については考えたことがありませんでした。薬剤師、教員、開発職、CRO、MR、行政志望の様々な将来を思い描いている学生と議論を交わし、10年後の薬剤師像について考えました。在宅医療の活性化、デジタルに負けない薬剤師、次世代の育成など様々な観点から意見が上がりましたが、全員が全てのニーズは患者及び市民の健康のためであると結論づけました。実際の20年後日本の医療がどのように変化しているかは分かりませんが、いつ何時でも患者様のために行動することが私たちの使命であることに改めて気付くことができました。最後に、今回このような体験をさせていただいたことに感謝するとともに、WS運営関係者並びに参加者

の皆様には深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

グループⅡB 氏名 打矢 貴子

2日間という日程の中での全国学生ワークショップでしたが、非常に濃密な時間を過ごすことができました。全国それぞれの大学で様々な学生生活を送ってきた薬学生と話し合うことで、今まで気づかなかった新たな発見や視点に触れることができました。

大学1年生の時は人それぞれ様々な意見を持っていたり、大学6年間同じ授業を受け、共に過ごしていると、自然と同じような考え方をしていることに、病院実習で他大学の薬学生と触れ合った際に気づきました。そのため、このような全国の薬学生が集まるワークショップに参加することができ、光栄でした。そして、大学6年間で様々なことを吸収して、多種多様な進路を選択した薬学生と密に討議することにより、自分の中になかった考えを見つけることができ、刺激を受けることができました。今回のワークショップで出会った方々との出会いや感じたことを大切に、今後薬剤師として日々精進していきたいと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせていただけたことに心から感謝いたします。ありがとうございました。

グループⅡB 氏名 荻野 悠加

全国の薬学生が一堂に会して活発な議論をする機会をいただき、ありがとうございました。多様な視点を知ることができたとともに、自分自身これまで漠然ととらえていた薬剤師としての将来について深く考えるきっかけとなりました。

話し合うテーマが壮大であり、また初めて会う人達と2日間過ごすということから、始まる前は自分がどこまで積極的に参加できるかに不安を持っていました。しかし、実際に始まってみると、周りに刺激を受け、真剣に議論に参加することができた、充実してあっという間の2日間でした。議論する前は方向性の異なる多様な視点の意見だと思っていた各人の主張も根本には共通する想いがあったり、薬剤師を「免許を使って実際に働いている人」ではなく「免許を持つ人すべて」として捉えることで参加した全員が自分の将来のこととして具体的に考えることにつながったり、このWSを通して多くの気づきを得ることができました。

最後になりましたが、このような貴重な場を提供してくださった関係者の皆様、ならびに2日間ともに過ごした仲間に心から御礼申し上げます。

グループⅡB 氏名 草間 智美

今回ワークショップに参加させていただいて、とても良い経験ができたと感じます。まずは、誰一人と知り合いのいない中、きちんとコミュニケーションがとれたことが私の中で少し自信になりました。大勢の薬学部生が集まっていろいろな話ができたと、聞いたことがとても刺激になったし、充実したものになりました。それぞれになりたい薬剤師像がきちんとあったと思いますが、それを結局はどのようにしたら実現するのか、ということまで具体的に考えたり話し合ったりする機会はそうありませんでした。自分の考えも整理でき、人の考えも聞くことによって、将来の薬剤師像がより具体化できました。このワークショップで話した内容や具体案が将来働いたときに実現できればよりよい医療

に繋がると思うし、大事なことだと感じました。学生から見た今の医療と現場で働いている薬剤師さんや先生方から見た医療は違うと思うので、学生からの視点でいろいろ討論ができるワークショップはこれからも必要だなと思いました。

ただ、スケジュールが結構タイトだったのでとてもあっという間に終わってしまったのが残念でした。

今回ワークショップに参加させていただき、ありがとうございました。とても有意義な時間が過ごせました。

グループⅡB 氏名 嶋 佑介

今回、第6回全国薬学生ワークショップに参加させていただき、全国71校の薬学生と求められる薬剤師としてのニーズやプロフェッショナリズム等について討議を行いました。

参加する前は他大学の薬学生と仲良くなれるか不安で2日もあるのかと思っていましたが、参加してみるとあっという間に終わってしまった2日間でした。

今までは他大学の薬学部との交流はほとんどなかったので、今回のワークショップで沢山の人と交流できたことはとても有意義でした。他大学の実習の話を知ると、私の知らなかった話も沢山出てきたため、自分の知識不足を痛感しました。ディスカッションを通じて、皆さんの能力、意欲の高さを感じると共に、私ももっと意欲的にならなければいけないと感じました。

薬剤師になってからは、行動宣言で宣言したことを常に忘れずに仕事したいと思いました。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様、2日間苦楽を共にしたⅡB班の仲間感謝します。ありがとうございました。

グループⅡB 氏名 関根 悠

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、とても貴重な体験ができた2日間でした。2日間という時間はあっという間でしたが、普段の学校生活では得ることのできない、内容の濃い時間を過ごすことができました。

私達のグループは、議題に対し様々な意見が飛び交いあい、時間ぎりぎりまで意見がまとまらない場面が多かったですが、時間を忘れてしまうほど熱い討論ができたことはとても良い経験であったし、楽しかったです。たくさんの意見を聞くことで、自分の見方・考え方の幅を広げることができました。同期なのに、しっかりと自分の夢を持った人達ばかりで、自分の考えの甘さに気付かされるとともに、とても良い刺激を受けました。ここで出会えた仲間・過ごした時間を大切にしたいと思います。これからの薬剤師に求められる社会のニーズとは何なのか、薬剤師のプロフェッショナリズムとは何なのか。これらの答えを追い求めながら、自分の夢に向かって努力していきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を設けて下さった日本薬学会の関係者のみなさま、タスクフォースの先生方、先輩方に心より御礼申し上げます。

グループⅡB 氏名 尊田 有香子

今回、日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加させていただき、2日間という短い期間ではありましたが、様々な意見に触れ、違う角度からのものの見方・考え方を学ぶことが

でき、とても有意義な時間を過ごすことができました。

10年～20年後の薬剤師が社会から求められるニーズについて、自分自身では漠然とした意見しか思いつきませんでした。皆さんしっかりと先を見据えた考えをお持ちで、身の引き締まる思いでした。総合討議で意見が中々まとまらない場面もありましたが、各班や各個人それぞれが譲れない強い思いを持って討論した結果であり、とても素晴らしいことだと感じました。この先医療がどのように変化していくかは分かりませんが、一人ひとりが志を高く持ち、目標に向かって努力し続ける姿勢が大切であることを学びました。特に、機械化が進む中、人にしかできないことは何なのか、という点は、私も実務実習中にぶち当たった壁でしたので、他の方の意見を聞くことができ大変参考になりました。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました日本薬学会関係者の皆様、暖かく見守って下さいましたタスクフォースの先生方・先輩方に厚く御礼申し上げます。また、出会えた全ての学生の方々に心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

グループⅡB 氏名 平田 葵

第6回全国薬学生ワークショップに二日間参加させて頂きありがとうございました。ワークショップに参加する前は、自分が議論の中でしっかりと意見を言えるのか不安でした。しかし、終わってみると全国の薬学生の方々と意見交換が出来たことは、貴重な機会となり良い刺激を貰うことが出来ました。

テーマに沿った議論を進める中で、それぞれの大学での教育や実務実習での経験は異なっていますが、共通の認識を持っている所や自分とは異なる視点からの考えに触れる事ができ、大変勉強になりました。より広い視野を持って物事を見る重要性を改めて感じました。薬剤師として将来求められる姿を真剣に考えている人が多く、その志の高さを自分ももっと見習わなければならないと痛感しました。時間の経過とともに、社会のニーズは異なってくるためプロフェッショナルな薬剤師を目指すためにも常に社会に目を向けるようにしたいと思います。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を設けて下さったワークショップ運営関係者の皆様と参加された学生の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

グループⅡB 氏名 森 祐也

今回のワークショップでは、「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナリズムを考える～」というテーマで2日間ワールドカフェやKJ法、寸劇、グループディスカッションを通して、私たち自身の将来や夢について深く考える良いきっかけとなった。また普段なかなか会うことの出来ない日本中の同期と繋がりが出来たことも今後の財産となると思う。この経験から社会からのニーズというものを意識して、自分たちに何が求められているのか考えて行動を起こすことの重要性を学ぶ事が出来た。また、6年間大学で過ごす中で初めて全国の同級生と一堂に会するチャンスをいただいて横の繋がりを得る事ができ、様々な分野で活躍している方とお話しして自分の視野が広がったように感じた。今後は、今回築いたこの横の繋がりをより強固なものとし、縦のつながりも新たに作って薬学全体が盛り上がっていかれると思った。

グループⅡC 氏名 遠藤 彩香

今回、全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学生と意見交換する貴重な経験ができました。10年後、20年後の将来を想像しながら薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考えることは、機械化が進む将来における薬剤師の存在意義を考えることでもあったと思います。

私は将来の薬剤師像として、漠然と患者さんや医療従事者の方々から信頼される薬剤師になりたいと考えていました。そして、そのためには自己研鑽と話しかけられやすい雰囲気づくりをしよう、という程度にしか考えが至っていませんでした。

しかし、それだけでは社会のニーズに応えられる薬剤師ではないと気づきました。必要なのは、未来を想像し能動的に幅広く行動でき、そして自職種の専門性を発揮してチーム医療に貢献できる薬剤師です。そのためには、社会全体に目を向け、薬剤師としての自分の考え方を日々更新していくべきだという考えに至りました。

今回のワークショップでは、全国に様々な考え方をもちた素晴らしい仲間がいることが分かり、多くの刺激を受けました。最後に、ワークショップで出会った全ての方々、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

グループⅡC 氏名 海宝 佳恵

あまり積極的ではない方の私にとって教授から持ちかけられた学生ワークショップへ参加してみないかという提案は青天の霹靂に他ならず、一念発起して出向いた大阪での2日間は絞り出した勇気には見合わないほど実りある体験となりました。

学んだ環境も異なれば目指す進路も違う同期生と1つのテーマを話し合う場というのはもちろん大学では得られない機会であり、絶えず飛び交う様々な観点からの意見にはそのレベルの高さに思わず舌を巻いてまともに発言することが出来ず、意見を伝えることの難しさや自分の考えの未熟さを痛感しました。

今まで未来の薬剤師像というものを明確に意識したことがありませんでしたが、この2日間でたくさんの意見に触れることで皆、目指す職種は違えどもプロフェッショナルな薬剤師を志していることに変わりないのだと気づき、私も自分なりの薬剤師像を描きそのための行動宣言を表明することが出来ました。

最後になりましたが、貴重な機会を頂けたことに心より感謝致します。多くの意見を聞くこと、また自分の意見を発信することの大切さを学ぶ大変良いきっかけになりました。タスクフォースの先生方をはじめ、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

グループⅡC 氏名 木村 美咲

今回のワークショップでは、将来の薬剤師が社会に求められているニーズやプロフェッショナルリズムなどについて討議を行った。2日間の議論の中では、“機械化が進む中で人である薬剤師にしかできないことは何か”という議論が多く生じ、その議論を通じて、人である薬剤師は、患者さんの気持ちに寄りそうことが重要だということを再認識することができた。患者さんの立場に立ち、患者さんがどのような感情を持っているのかを考えることは、機械ではできないと思う。何年後においても、患者さんの気持ちを尊重した対応をすることが薬剤師に求められ

ているのではないかと感じた。

10 年後、20 年後の自分たちの役割について考えることは、現場の状況を完全には把握できていない私たち学生にとっては難しい課題であるなと感じたが、その中でも他大学の学生と意見を交わし、薬剤師として社会に貢献する上で必要な意識などについて考えることができたのは、将来薬剤師として働く上で非常に良い経験であったのではないかなと思う。そしてこの先も、その時代における薬剤師のあるべき姿について考え続けていかなければならないなと感じた。

グループⅡC 氏名 小林 慎也

全国から薬学生の集まるワークショップに参加し、他大学の薬学生とのSGDを通して薬剤師のプロフェッショナルリズムとは何かを考える、非常に充実した二日間になりました。

World Café では初対面の方と突然会話が始まり、テーマに沿って他大学の情報共有をすることで普段の学内の生活では体験することのできない有意義な時間になりました。

またプロフェッショナルリズムとは何か、普段意識していない内容について参加者それぞれの考えを主張しあう熱い議論を共有することで、新たな刺激を受けることができました。この議論を通して、薬剤師のプロフェッショナルリズムを意識することは、これからの私たちが今すべき「行動」に反映させることが大切だと自覚することができました。

今回のワークショップに参加させていただいたことで卒後、薬剤師として社会にでる自覚を再確認することができ、また、卒業生や先生方の助言をいただいたことで、より私たち薬学生が薬剤師になる覚悟を自身の考えを深めあうことができた実感しています。心より御礼申し上げます。

グループⅡC 氏名 高垣 菜央

全国学生ワークショップ（以下、WS）は、非常に刺激的な出会いの場となりました。

各大学から学生が参加していたため、集まったメンバーは育った環境や学んだ環境が異なり、目指す進路も様々でした。一人一人が独自の考えを持っており、今回のラウンドを通して、お互いの意見を共有し、一つの議題に対して複数の面からアプローチしていき、そこから新たな見方、考え方が派生していく面白さを実感しました。そして、この先の歩む道は違えども、プロフェッショナルとして薬剤師を目指すことに変わりはないため、討議を重ねるにつれて同じ目標を持つ仲間同士の連帯感が生まれたのではと私は考えています。

さらに、グループ討議や発表の技能を積む経験もしました。司会では、議論を円滑に進め、より良いものにするために、自分の意見を押し通すのではなく、常にグループ全体への細やかな気配りが必要であることを痛感し、また、ディスカッションを進めていく中で、改めて他者の意見を聞き入れて理解し、さらに自分の意見を伝えることの難しさを痛感しました。

今回のWSは多くの人との出会いを通じて、自分達の将来を見つめ直す貴重な機会となりました。

最後になりますが、WSでお世話になりました皆様方に厚く御礼申し上げます。

グループⅡC 氏名 高室 ひと穂

今回のワークショップを通じて、在宅医療やセルフメディケーション、次世代の薬剤師の育成など、薬剤師に対する社会のニーズに応えるためにそれぞれの薬学生が重要視していることを共有することができました。また、社会のニーズや薬剤師のプロフェッショナルリズムについて時間をかけて議論することができたため、自分の行動宣言を、自信を持って掲げることができました。この経験を糧に、薬剤師になってからも自分達が思い描いた薬剤師に近づけるよう、またはそれを超えていけるように精進していきたいと思います。ワークショップ全体としては、真剣な内容で議題も難しかったですが、たくさんの工夫が凝られており、楽しみながら取り組むことができました。また、このワークショップに参加したことで、全国の薬学生と交流し、繋がりを持つことができました。このような企画・運営をしてくださった役員の皆様に大変感謝しています。この繋がりをこれからも大切にして、頑張っていきたいと思います。

グループⅡC 氏名 長谷川 奨忠

はじめは「社会が私たちに求めているものは何か？」という大きなテーマに対して、ちゃんとした議論ができるのか不安でした。しかし、班員それぞれが少しずつ意見を出し合い、議論を進めていく中で、自分たちなりの答えを出すことができたと思います。全国の薬学生と交流することができ、共に『薬剤師としてのプロフェッショナルリズム』を考えることができたのは、貴重な経験であったと思います。

特に印象的だった議論は第二部セッションⅡです。それまで話し合ってきた『10年、20年後の社会のニーズ』に応える薬剤師の姿を、劇にして演じました。数多くある伝えたいことを限られた時間の中でまとめ、さらにそれを劇という形で表現することは、とても難しい作業がありました。しかしだからこそ充実した、濃い議論を行うことができたと思います。

最後には、未来を支える薬剤師として何をすべきかを「行動宣言」としてまとめました。自分がどうして薬学部に入學したのか、今後どのような薬剤師になりたいのか、改めて見つめ直すことができました。今回の経験を糧に、宣言したような立派な薬剤師になれるようさらに努力していきたいと思います。

グループⅡC 氏名 蜂須 和馬

第6回全国学生ワークショップに参加でき非常に良い経験になりました。今回のWSでは未来の薬剤師のニーズについて真剣に考え、薬剤師の仕事について向き合うことが出来ました。また全国の薬学生と知り合えたことは今後の自分の人生においても大切な財産になると感じました。

議論を通じ一つにテーマに対してたくさんの意見に触れることができ、物事に対して多角的視点を持つことに繋がりました。また、自分の視野の狭さを再確認することができました。今回の議論を行ってから薬剤師の仕事の可能性について考えられました。

World Café や情報交換会では、他大学の実情や他の薬学生の卒業論文や将来の進路について話すことができ非常に勉強になりました。特に進路に対する考え方は今回のテーマでもある将来の薬剤師のニーズを個々人がどのように捉えているかを反映していた為非常に興味深かったです。

最後になりますが、今回このような貴重な機会を設けて下さった関係者皆様、そして2日間共に議論を交わした班の仲間・参加者の皆様に心から感謝申し上げます。

グループⅢA 氏名 小野 奈緒

今回、学生ワークショップに参加させていただき、とても充実した2日間を過ごすことができました。今まで、これほど多くの他大学の学生と活発に意見を交わす場に参加したことは無く、新鮮でとても良い刺激になりました。

World Café 形式のグループワークは経験したことがなかったので、最初は進め方に戸惑うこともありました。しかしながら他のメンバーの協力があり、テーブルマスターとして無事にディスカッションを進め、たくさん落書きを残すことが出来ました。KJ 法では、薬剤師の社会からのニーズとは何かを、徹底して追及することで、改めて将来の薬剤師像を考えることが出来ました。短い時間でしたが、白熱した議論の中で何度も図をなおしながら、とても完成度の高い発表になったと思います。

これらのグループワークを通じて、薬剤師を目指す人もそうでない人も、薬剤師・薬学部の活躍の場をもっと広げたい、という共通の思いがあることを知りました。

最後に、この度はこのような交流の場を設けて下さった関係者の皆様に、心より感謝致します。ありがとうございました。

グループⅢA 氏名 小畑 志保

2日間のワークショップでしたが、初対面の薬学生と議論することは想像以上に面白く、議論する難しさ、楽しさを改めて感じる事が出来ました。班のメンバー全員が薬剤師としての考えを持っていて、議論が白熱し上手に進まないこともありましたが、それでも誰も考えることを止めず、よりよいプロダクトを作成しようと全力を尽くしていました。進路は人それぞれ異なりますが、同じ薬剤師ということには変わりはないということ、目指すものは同じということがひしひしと感じられました。

今社会では薬剤師に対して風当たりが少し強く、薬剤師として働くことは不安でした。しかし、今回出会った仲間はその不安を感じさせないくらい薬剤師に対して熱い思いや希望を持っている人ばかりで、日本全国に同じ熱い思いを持って働く仲間がいると思ったら、すごく心強く、そして安心しました。

たった2日間という短い時間でしたが、色々な意見を聞けて、また私自身も色々な意見を言うことができ、とても刺激的でした。今回の経験を胸に、また今回出会った仲間に負けないように将来薬剤師として頑張りたいと思います。

グループⅢA 氏名 高橋 あかね

当初、不安しかなかった私ですが、そんな不安もすぐに吹き飛んだこの2日間は、各地域の文化や各大学のカリキュラムの違いなどを知るとともに、1つの議題に対して様々な角度から考えを巡らすことができると再認識させられた、とても刺激的な出来事となりました。

このWSに参加している学生全員が、プレゼンテーション能力や考えを簡潔に伝える能力が秀でており、「同じ学年で同い年の人がほとんどなのに、こんなにもしっかりとしているのだ」

と、衝撃を受けました。自分では考えもつかないような意見が次々と出てくる活発な議論は、私にとって常に新しい発見ばかりで、とても刺激的でした。社会のニーズ、機械と人の能力の違いや両者の共存について、深く考えを巡らせたこの2日間は、私の狭かった視野を広げてくれました。また、皆、将来の夢が明確で、そして壮大であることに驚きました。将来を見据えて積極的な活動をしている素晴らしい方々と議論し合えたことを誇りに思います。

最後になりますが、WS開催に携わった諸先生方、そして、2日間を共に過ごした仲間に心より御礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 玉田 将幹

今回、普通に生活する中では関わることのない日本中の薬学部生と一緒にディスカッションを行いました。普段の学校の講義とは全く異なる意見を多く聞くことができました。『6年制薬学部を卒業した薬剤師』としてこれから一緒に活躍する場面も多くあるかと思います。そのような人達の考えとして、自分の学校の人達にも伝えていければと考えています。

また、私は地域医療に貢献したいという夢を持っていますが、同じ夢を持ち、同じ『九州』というフィールドで活躍したいと思っている人達との繋がりを作れたという意味でも非常に貴重な機会だったと感じています。

さらに私は、このワークショップを通して自分の考えや知識が偏っていることを痛感し、今後のモチベーションの向上に繋げることができました。これらいくつかの理由から、全ての今回のワークショップに参加することができて本当によかったと感じています。

最後になりましたが、このような場を与えて下さった全ての先生、先輩方、参加者の皆様、本当に有難うございました。私もこれから一人の薬剤師として、社会の役にたてるよう頑張っていきたいと思います。

グループⅢA 氏名 富永 一摩

10年後、20年後の将来に薬剤師に求められる社会のニーズについて議論する中で現在では一般的となった薬剤師業務も時代の流れとともに刻々と変化していくニーズに対応するために増設されたものであると感じる一方で今後のニーズの変化に対応していくためには常に視野を広げて、ITやロボット技術をはじめとした医療に係る分野に着目し、社会全体を観察していく必要があると考えました。

また、薬剤師のプロフェッショナリズムについて考え、実現するための行動計画を立て宣言することで私たちが薬剤師として社会に出た際に、一人一人が自覚や責任を持って今回各班から挙げた行動計画を実行していくことで薬剤師のプロフェッショナリズムを構築されていくと思います。

そして、全国の薬学生が一堂に会する貴重な交流の場として様々な意見交換をすることができ、刺激を受けるとともにモチベーションの向上にも繋がりました。

グループⅢA 氏名 新村 糧

この度のワークショップは、全国の薬学生とお互いの意見交換を行うことができ、大変刺激になる有意義な機会となりました。

2日間のワークショップを通して、他大学の学生の「考え方」が大きく違うことに驚きを感じました。ディスカッションの大きなテーマとして挙げられた「これからの薬剤師が求められるニーズ」について話し合う中で、班のメンバーそれぞれが、自らの考えを持ち、根拠を持って説明する力があることにも刺激を受けました。そして、「人と人の繋がりを意識したサービスの提供」というニーズが IT 化やロボット化が進んだ社会でも普遍的なニーズであることを学びました。薬剤師である前に、一人の人として「人間性」を高めていこうと思います。

情報交換会では、病院や薬局、メーカーに就職されている先輩に、現場でのお話を沢山お聞きすることができ、将来のビジョンへの参考にもなりました。また、班のメンバーとは、お互いの意見を包み隠さず話し合えたことで、これから末永く良い仲間としてお付き合いできると思っています。

この度は、このような大変貴重な機会を与えて下さいました日本薬学会の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

グループⅢA 氏名 濱端 綾太

ワークショップを終えてみると、2日間があっという間に過ぎたように感じます。時間を忘れるほどに熱い議論に集中し、充実した時間を過ごしていたからだと思います。全国の薬学生と議論しあえたことをとても嬉しく感じています。

ワークショップの中では特に薬剤師のプロフェッショナリズムについて考えたプログラムが印象に残っています。利他主義、専門職としての質の向上、社会的責任がプロフェッショナリズムとして重要であるということを学びました。そこから、自分たちのあるべき姿について考えられた経験はとても貴重なものです。今後薬剤師として生きていくうえで、自分のプロフェッショナリズムとは何かを常に考えていきたいと強く思いました。そして、必ず行動宣言を実行していき、立派な薬剤師になりたいと思います。

最後に企画・進行をしていただいたタスクフォース、卒業生、そのほかの皆さんに感謝申し上げます。素晴らしい機会をありがとうございました。

グループⅢA 氏名 山本 ありさ

ワークショップを終えて、疑問に思ったことがあります。それは、このワークショップは何を目的としているのか、これによって何が変わったのかということです。

この全国学生ワークショップは、はじめは6年制1期生から薬学教育に対するフィードバックを受ける目的で始まったということでしたが、今回設定されたテーマ及び実際の作業内容からこのワークショップの主な目的はフィードバックではないと感じました。

では、薬学生を集めて討論させることで意識を高め、薬剤師の質を高めようとしているのだろうかとも考えましたが、2日間議論を行ってその場では薬剤師のプロフェッショナリズムに対する意識が高まったとしても、社会に出てからもそのモチベーションが保たれ、薬剤師としての行動に影響を与えとはあまり考えられません。また、仮に意識もモチベーションも高いまま保たれるとしても全国で1万人近くいる薬学部6年生のうち70人ほどを集めて意識を高めることで何か変化が起きるとは思えません。

かかる労力や費用に見合う効果が得られるのかを少し疑問に思いました。

グループⅢB 氏名 市原 果奈

まずは、日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加させていただいて、とても感謝しています。

ワークショップでは、とても活発な意見交換がなされていました。自分自身も驚くくらい、自分の考えを発信し、相手の意見を吸収できたと思っています。今回のワークショップでは大きな議題として、「社会が私たちに求めているものは何か」というものがありました。それぞれのグループの発表を拝聴し、私は「常に進化し続けていくこと」が大切なのではないかと思いました。社会のニーズは常に変動していくものです。それについて行けるように自己研鑽を欠かさないことが薬剤師の大前提にあるのかなと感じました。また、このような人と出会える場というのも新しい情報を入れるのにいい機会になるなと思いました。

そして、それぞれ学び舎は違えど、志は同じ。私は、ワークショップを終えて、このことを身に染みて感じています。皆、進路も違えば、夢も違う。でも、「患者さんのために」という気持ち是一緒でした。次また出会えるとき、さらにそれぞれが成長して、さらなる薬学の発展のために意見を交換し合えたらいいなと思います。

グループⅢB 氏名 岩田 瑞希

自分の意見を堂々と伝えることができる雰囲気、それに対して異なる視点の意見が活発に飛び交う場で、とても楽しい1泊2日でした。この雰囲気が「チーム医療」に大切なことだと私は感じました。「患者さんのために」と同じ思いを持っていても、視点が異なると、意見も異なる。そのときに、相手の意見を否定するのではなく、なぜそう考えるのかを思いやる心を持つことで、よりよい医療につながる、そう感じました。疑義照会の伝え方次第で、「ありがとう」が口から出るという木下先生のお話にも通じる気がします。

また、私にとって「利他」を考える1泊2日でもありました。「恥ずかしい」「怒られたくない」という気持ちは利己的な行動に対して生まれるもので、「患者さんに元気になってほしい」と利他の気持ちがあれば、自然と行動も変わってくる、とSGDを通して感じました。他にも、これまで言語化されずに自分の中にあったものが言語化できたことが大きな収穫でした。ここでの出会いを大切に、行動宣言を実践していきます。

グループⅢB 氏名 内川 詩野

これまで実務実習などで近隣の大学生と交流する機会はありませんでしたが、全国各地の志を高く持つ同期の学生と交流ができることはめったにない経験であり、この2日間のWSでは大変濃密で貴重な時間を過ごすことができました。

今回「未来」「ニーズ」「professional」を核として、これから10年・20年先の薬剤師には何が必要か？という部分が議論されました。遠くない未来について考える中で、SGDでは共通認識もある一方、目指す進路の違う者同士それぞれが見据える薬剤師像が異なり、様々な意見が飛び交いました。議論が盛り上がり時間が押してしまう事も間々ありました。こんなにも「もっと時間が欲しい！」と思える議論ができた事は初めてでした。初日のWorld Caféから始まり、グループで親密に交流できた事によって、これほど充実した時間を過ごせたのだと感じています。

この2日間を通して、自分とは違う環境で能力を磨く人々と意見交換でき、将来に向けてとても視野が広がりました。これからの未来を担う一人として、今回出会えた大切な仲間と交わした思いを大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、今回WS開催にあたりご尽力頂きました全ての皆様に深く御礼申し上げます。

グループⅢB 氏名 中野 充貴

本ワークショップにおいて大変貴重な経験をさせていただきました。

自分としては多くの薬学生とのディスカッションを通じて薬剤師としての将来の自分の生き方について深く考えることができたことが大きな収穫だったと考えています。正直なところ、このワークショップに参加するまでは自分の将来について具体的に明確なビジョンを持てていなかったと今では思っています。(就職活動等で大雑把にはイメージをしていましたが。) 違う大学で違う教育を受けた学生同士、違った観点からの意見を吸収することができました。特に病院志望の人が自分の周りにはあまりおらず、どのような思いで志望しているのか、何を成し遂げたいのかなど、将来の自分を考える上でとても参考になりました。

また、多くの同世代の学生と交流できたことも人脈を広げる意味でも、純粋に楽しかったという意味でも貴重な体験でした。今後も折角できた交流を続けていき、薬剤師として様々な立場からみんなで社会を良くしていきたいと考えています。

グループⅢB 氏名 速水 智加

薬学部に入學してからずっと、患者さんに寄り添う薬剤師になろうと考えていた。しかし、IT化やロボット化が進み、薬剤師の仕事はなくなるのではないかと思い始めた頃にワークショップの参加が決まった。ワークショップに参加するまでは、ロボットに負けてしまうのではないかという気持ちが強かったが、その気持ちは一掃された。患者さんの心を開くことはロボットにはできないことであり、たとえ失敗しても諦めずに患者さんの話に耳を傾け、気持ちを共感し、一緒に病気を治していきたいという思いが伝われば、きっと心を開いてくれるはずである。その失敗や成功の経験がこれからの自分の将来の自信へとつながると実感した。

今回のワークショップは私にこれからの薬剤師の在り方、そして人にしかできない力を教えてくれた。振り返ってみると、一泊二日という短い時間の中でかけがえのない仲間達に出会い、自分の成長を感じることができるよう期間だったと思う。このようなチャンスを与えて下さった方々に深く感謝すると共に、患者さんに寄り添う薬剤師になろうと改めて決意した。

グループⅢB 氏名 湊山 亜未

この度日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加させていただき全国の薬学生と意見交換し交流を深めたことは、とても貴重な経験となりました。

グループのメンバーは大学での環境も今後の進路も多種多様であり、今まで出会ったことのないような、自分とは違う考え方に刺激を受けることができました。また、ディスカッションではそれぞれ自分の意見がしっかりとしており、それにより様々な視点から薬剤師に求められるニーズやプロフェッショナルリズムについて見つめることができたと同時に、皆の意見を

聞いてこれまでの自分の将来像や薬剤師の可能性についての考えが足りていなかったことを痛感しました。

今回の経験や出会いを大切に、社会に貢献する薬剤師を目指して一層の研鑽を積んでいきたいと思います。

最後に、このような素晴らしい機会を与えて下さった日本薬学会関係者およびタスクフォースの皆様、先輩方、2日間共に過ごした同期の皆さんに深く感謝致します。

グループⅢB 氏名 矢萩 弘晃

今回、日本薬学会第6回全国学生ワークショップに参加させていただき、全国の薬学生との活発な意見交換を通して数々の貴重な経験を得ることができました。

「社会が私たちに求めているものは何か？」というテーマのもと、10年、20年後の社会における薬剤師の役割と社会的ニーズを考え、プロフェッショナルとして社会に貢献するためにはどのようなことをする必要があるのかを個人・グループで話し合い、様々な意見に触れることができました。近い将来、医療現場へロボットが導入される中で薬剤師がどのように医療に携わるべきかを話し合うことで、視点の異なる多くの有意義な意見が挙がりましたが、共通する意見として患者さんの背景を理解して薬物治療を提供できるのは薬剤師である人であり、この点はロボットには取ってかわることができない、という点でした。薬剤師を取り巻く環境が将来大きく変わっていくとしても、患者さんのための医療を行う、という根本的な考えを常に持って行動することが重要なのだと強く感じました。今回得た大きな経験を後輩たちにも伝え、仲間とともに切磋琢磨していきたいと思います。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様をはじめとした多くの関係者の方々に感謝申し上げます。

グループⅢB 氏名 山崎 翔太

全国の薬学生・薬科大学生が、一堂に会して意見交換をするプログラムに参加させて頂き、他大学の方と交流できたことは、非常に実りのある経験となりました。私が参加した班は、時間に追われながらプロダクトを制作するほどに、議論が白熱しました。少ない時間であっても、修正が必要な内容は無かった、と皆が自負しています。総合討論においても、同期たちが堂々と意見を発信する姿、その志の高さ、思いの強さに驚くばかりでした。総合討論の中で、特に印象的だったのが「発言することを恐れない」という意見です。たとえ心が折れてしまいそうになっても、その背景には、培った経験や確固たる自信、根拠があるはずで、何があっても薬剤師としてブレない軸を持つことが必要だという声に強く共感しました。

このような素晴らしい同志達に出会えたことは、今後の人生において何よりの財産となるものであり、心より嬉しく思います。最後になりましたが、本ワークショップを設けてくださった日本薬学会関係者およびタスクフォースの皆様、感動を頂いた同期の皆さんに厚く御礼申し上げます。

グループⅢC 氏名 新井 亜主美

今回、このワークショップに参加させていただき、全国の薬学生、卒業生やタスクフォースの方と2日間、議論を重ねたことで多くの刺激を受け、今後薬剤師として、自分はどのように役に立てるのかを改めて考えた2日間となりました。

2日目の特別講演で木下先生が仰っていた「意見を言うことを恐れない」という言葉はとても印象に残りました。最初は遠慮気味に議論を交わしていた班のメンバーでしたが、いつしか、お互いを尊重し合い意見を認め合えるととても良い雰囲気ができあがっていました。班のメンバー全員が自分の意見をのびのびと交わし、木下先生が仰っていた「意見を言うことを恐れない」姿勢が班のメンバー皆にありました。

このワークショップで得られた気付きや、自分の中に新たに芽生えた思いを忘れず、今後薬剤師として働くなかで活かしていきます。

最後に、貴重な機会を与えてくださった日本薬学会関係者の皆様、タスクフォースの先生方、卒業生の先輩方に心より御礼申し上げます。また、この2日間、共に熱く意見を交わした友人たちに深く感謝します。

グループⅢC 氏名 梅原 伸匡

このワークショップに参加できたことが貴重な経験になりました。普段は大学という狭い空間で過ごしているので、なかなか他大学の人との交流はありませんでした。二日間のSGDを通して、様々な意見交換ができ、その中で自分とは違う考え方や価値観に触れることが出来ました。今の時点で、自分の能力がどれくらいなのかや他の人と比べて劣っている点などを認識できたことは刺激になりました。そして、改めてコミュニケーション能力の重要性を感じました。今回のテーマは終わってみると少し難しかったと感じました。未来のことを考える良い機会にはなりましたが、個人的には自分たちが受けてきた薬学教育についてもっと意見を交換したかったです。学生が満足している点や満足していない点はたくさんあると思うので、そのようなことを話せる時間がもっとあれば良かったです。他には、せっかく卒業生の方々がいたので、様々な業界の話が聞きたかったです。ここでの繋がりを大切に、学んだことを将来に活かしていきたいです。

グループⅢC 氏名 江崎 のぞみ

ワークショップを通して、全国の薬学部6年生が集まり意見を交換すると、こんなにも色々な意見を聞くことが出来るのかと、驚きました。同じ未来を目指しているから、考えているところの軸のようなものは似ているなど感じる事が多くありましたが、中には全然違う考えもあり、とても良い刺激を受けることができました。漠然としていた将来が、今回のワークショップで10年後、20年後を実際に想像する機会を頂き、自分の目標が少し見えてきた気がします。私もみんなと一緒にこれからもっと頑張っていきたいと思えることができました。

今回のワークショップは、楽しく、時には真剣に話し合うことが出来たとても濃い2日間でした。初日に会場に入った時の緊張感や不安が嘘のように、2日間のワークショップを終えて帰る時には、もう終わったんだな。という寂しい気持ちがありました。色々な話を聞いたこと、素敵な出会いなど、参加出来て良かったと思える2日間でした。このような素敵な場を準備し

てくださった関係者の方々、参加を勧めてくださった先生、一緒に2日間過ごした6年生のみんなには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

グループⅢC 氏名 工藤 真子

未来を見つめることで今やるべきことが見えてくる、これが今回の第6回全国学生ワークショップ（以下WSと呼ばせていただきます）で感じたことです。今まで、なんとなく将来なりたい薬剤師像を考えてはいましたが、未来の社会のニーズを踏まえ今何をすべきかを意識することはできていませんでした。WSに参加していなければ、漠然とした夢を持ちながらも漠然と日々を過ごしていたと思います。このWSは私に未来を考え、今やるべきことを明確にするきっかけを与えてくれました。

また、意識が高く、自分の考えを持ち、堂々と発言できる多くの方々に会い、様々な生き方・考え方に触れることができました。そして多くの刺激を受け、自分の未熟さと様々な方々と交流することの重要性を痛感しました。自分を成長させてくれた仲間との出会いを今後も大切にしたいと切に思います。

私は今回のWSに参加することができ本当によかったと心から思っています。とても楽しく有意義な時間を過ごすことができ、2日間がとても短く感じました。ここで学んだこと、考えたことを忘れず、行動宣言を実行していきたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、円滑な進行にご尽力くださった日本薬学会の関係者の方々、大学の先生方、タスクフォースの先生方、卒業生の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

グループⅢC 氏名 高橋 雅也

WSを終えて、全国の薬学生と新鮮な意見交換をできたことが、将来薬剤師というプロフェッショナルとして働く自覚を強くしたと思う。大学の中では見慣れた友人や教員とのかかわりが日常を多く占め、将来の薬剤師の理想像について今更語り合うのはどこか恥ずかしいと思う自分がいた。しかし、今回のワークショップで薬学生の輪の中に自然と入ることができ、志とともにする仲間が全国にいることを肌で感じる事ができた。ワークでは、班のみんなが将来の薬剤師について意見を言っていて、一つの目的に向かって試行錯誤をしながらワークを進めていくことを、私は楽しむことができた。時には論点からずれた笑い話をしながら、班のみんなが私の実務実習で感じたことや将来の薬剤師についての意見を受け入れてくれ、最後にはみんなの納得する形でワークを終えることができていた。それこそが“10～20年後の薬剤師の理想像”やプロフェッショナルのイメージを形にし、ワークを楽しみ“想い”出とすることに繋がったと感じる。

最後に、この素敵なWSに参加できたことを財産に、プロフェッショナルを目指して邁進したいと思います。

P.S.北海道に来たときはぜひご連絡ください。

グループⅢC 氏名 西川 茜

今回のワークショップに参加させていただくにあたって、全国の薬学生がこれだけ集まる機会は滅多にないので、どんな人たちに会えるのだろうととても楽しみにしていました。

議論を進めていく中で、参加しているメンバー1人1人が自分の意見をしっかりと言い合える環境、雰囲気となっていき、話し合いをより良い方向に進めることが出来たので良かったです。また、他大学の薬学生と意見や情報を交換し、自分とは異なる業種へ就職される方や、将来こういうことがしたいという明確な目標をもっている方から、様々な話を聞く事ができ、とても良い刺激となりました。

今回のワークショップでは、この繋がりが今後もずっと続いてほしいと感じるとても良いメンバーに恵まれ、楽しく有意義な2日間を過ごさせていただくことが出来ました。参加させていただいて、本当に良かったです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の関係者の皆様、タスクフォースの先生方、先輩方に心より御礼申し上げます。

グループⅢC 氏名 原 智明

2日間という短い期間でしたが、密度の濃い時間を過ごすことができました。全国の大学から代表者が一人ずつ集まるということで、私はどんな人に出会えるのかを楽しみにしながら、今回のWSに参加させていただきました。普段、大学の中で薬剤師に関して議論を交わしても同じ教育を受けてきたためか、似たり寄ったりの意見しか触れることができませんでした。しかし、今回のWSを通して多様な考え方に触れることが出来ました。また、参加者全員が自身の意見を持ち、積極的に発表していたこと、さらに患者さんに懸ける熱い思いを持っていたことは、私にとって良い刺激になりました。

また、特別講演では、木下先生から「医療人のプロフェッショナル」について講演していただきました。そこで、印象に残った言葉が、「医療人のプロフェッショナルとは、利他主義で患者さんの利益を最優先すること」という言葉です。私は直接医療現場に関わらないので医療人を語るにふさわしくないかもしれませんが、薬に関わる以上は常に「患者さんのために」という意識は持ち続けたいと感じました。

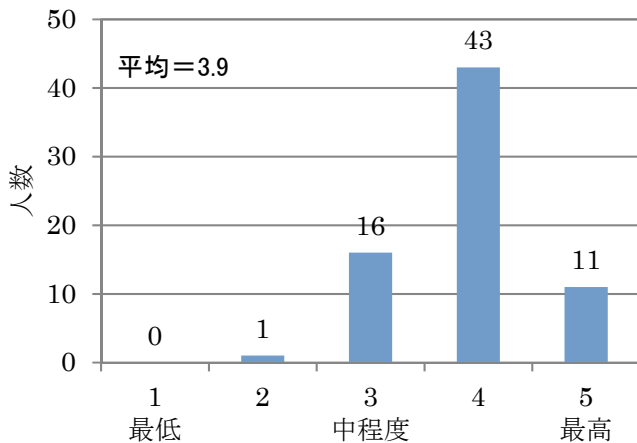
最後に、このような貴重な経験をさせていただけたことを感謝するとともに、関係者の皆様には深く御礼申し上げます。また、共に熱く語り合い、刺激を与えてくれた参加者の方々にもこの場を借りて御礼申し上げます。

参加者

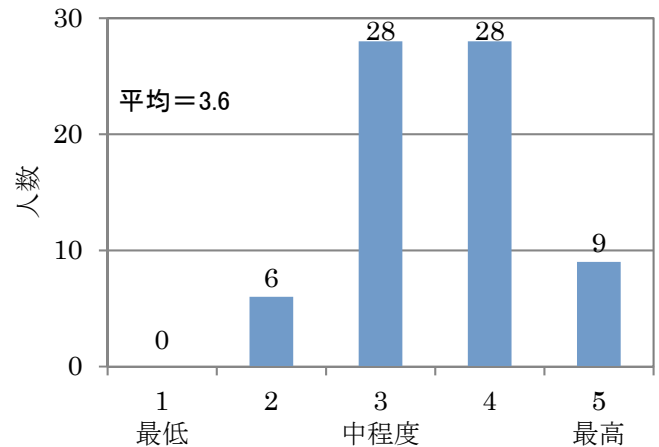
アンケート結果

第1日目の評価

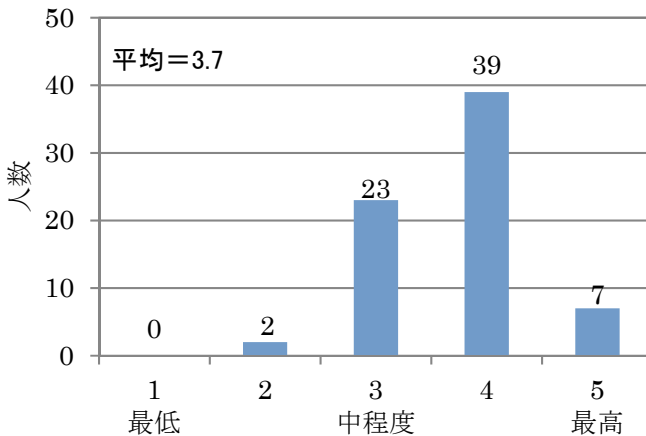
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



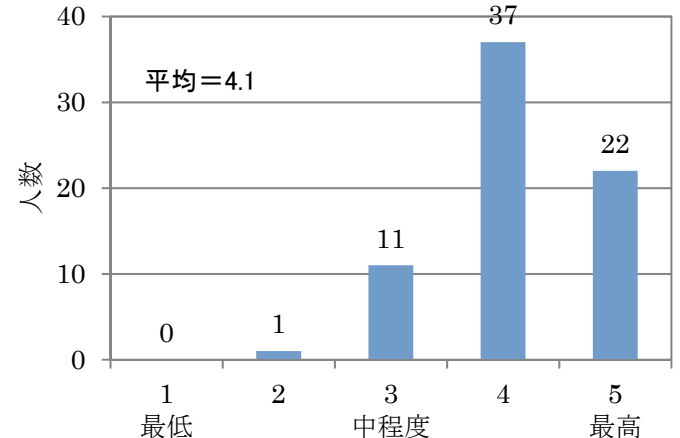
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事はよかったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

●10、20年後のニーズを考えると3、4年後のニーズを考えてしまっていた。

10、20年後のニーズを考える事は難しかったが、今では想像できない意見が未来では実現されているかもしれないので、二日目は思いきった意見を出していきたい。

●薬剤師の職は、今後更に高度化し難化していく中で、それに見合うぐらい求められていくのかなと感じました。

●薬剤師は現時点で出来ることは限られている。その中でどの様に自分を表現できるかが課題だと思う。将来を考えた討論では、皆さん希望を添えた内容であり、その中でもまず社会・

患者さんに私たちは何を求められているのか考える事の大切さを学びました。

●薬剤師が社会に求められるニーズについて考える機会が少なかったので、今回のワークショップで自分も考える事ができたし、他の人の意見も聞けて今のままでは不足が多いことが改めてわかった。

●薬剤師のニーズは変わるのではなく、「変える」という考え方にはとても共感しました。また同じ業務を他職種でカバーすることで、医療ミスにつながることに気づきました。

●他の同級生がどのように6年間で過ごしてきたのか。自分以外の様々な考え方を理解できました。

●社会、構造、ニーズなどは今後変化していく。薬剤師に限らず、コミュニケーションスキルは重要であると思った。

●ニーズが「変わる」のか「変える」のかという問題。言われるまでまったく気づかなかった問題だと実感した。

●事故はスキマから起こる。

●薬剤師の進化のためには薬剤師自身が自ら動いていて能力向上させないといけない。

●一つの意見に対し、自分の考えつかなかったことが多々でてきて、自分自身だけの意見にとられすぎないことが非常に大切だということ。

●私たちが医療を考える上で対象とするのは患者であるということ。

医師にも私たち（がなる予定の）薬剤師は、情報源等の意味でニーズがあると思うが、今回の討議では患者だという結論になった。

●今のニーズを知りそれに対応していく事が大切。また、将来のニーズも考えそれに対応できるように我々は準備していかなければならないこと。さらに我々できることを理解し、出していくことで新たなニーズが生まれてくる。

今日のテーマ議論を通して「ニーズ」理解考えたりして、それにそった対応がどの仕事をするためにも大事だと理解した。

●10年後20年後求められる薬剤師として議論し、意見を聴けたことと、私達が努力しないと出来る仕事の範囲が広がらないのではないかということ。

●同じ6年生の学生でも、別の大学の人は自分の大学の同級生とはまた別の目線や意識があると分かった。ニーズを一言で語るのには難しく、今日のグループ討論でもほとんどこの内容についてだったと思う。

●10、20年後を考えるという視点を持つこと。その際にいかに社会の状況を想像できるかが大事だと思いました。

●薬学部生として薬剤師の目線でニーズやすべき事を見ていることに気が付くことができました。複数の視点を持つことの重要性和必要性を理解できました。

●社会のニーズに応えるとはどういうことなのか、目標ややりたいこと、ニーズとの違いについて、そのずれ等について気づき、理解することができた。

●「多職種との関わり」が大切と言われているが、名城大学の大津先生がおっしゃっていたように「関わる」だけではなく、オーバーラップする事が大切だと気づき、今日一番の気づきであると感じた。

●10～20年後の自分が何をしているか、どうありたいかというイメージはもっていたが、

それは今の環境の 10～20 年後であって、10～20 年後の世間や医療の変化について深く考えていなかったということに気づき、10～20 年後について他の人の意見を聞くことで薬剤師の在り方についてまた深く考える事ができた。

●多くの学生が「処方権を持ちたい」という意思を持っていることに驚いた。チェックの精度を上げたり、医師への提案等で患者に貢献するのではと思っていたのですごく新鮮だった。

●社会のニーズについて、自分はよく理解できているつもりでしたが、今日の様々な問題にぶちあたり、臨機応変にニーズの変化に対応できる薬剤師になりたいと思いました。理解できたことじゃなくてすいません。

●人が違えば考えている事、大事に思っている事が違うこと。

●テーマとして社会のニーズであったがこの「社会」をどう据えるかで様々な考えがあると感じた。

●薬学生が自分以外でどんなことを考えているのかよく理解できた。

●今回初めて KJ 法と使って討論し、一つ一つのワードを分類分け、島ごとに分けることで、その他の島の関連性が新たに発見できるなど、有意義な討論になりました。

●10 年後の自身について、また薬剤師の社会のニーズについて、深く考え、更に共有できたことは非常に良い経験でした。地域包括ケアが現段階で最もトレンドであり、今後薬剤師の職域を増やすことは皆の共通認識であり、今後も考えて改善していきたいです。

●未来を見すえた行動・思考をすることの重要性、ロボット導入などで不要になる仕事もあればフィジカルアセスメントなど可能になる仕事が増えるなど、薬剤師の可能性は様々である。

●薬剤師に求められている事は、多職種、多方面の方々から、多岐に渡るであろうということがブレインストーミングを通してまたその後のディスカッションにおいて、改めて気付かされました。

●10 年後の予測の難しさ。どうしても今現在の延長で考えている部分がありました。しかしながら 10 年後への期待や私達や先輩方の努力しだいで変えることも可能なのかもしれないと思いました。

●同じ薬学生でも着目点、そこからの発展のさせ方など非常に様々であると感じました。

「ロボットが一般化するからコスト面は問題ない」といった返答など。

●薬剤師の職能を広げることの重要性を理解した。

●10 年後のこうなってほしい薬剤師像。

●質問の意図とは少しずれるかもしれませんが、様々なバックグラウンドがある参加者から色々な話が聞けて視野が広がったと思います。

●テーマが 10 年後ということで、今できていることとできていないことが何かということを考えるキッカケになりました。そして 10 年後より患者さんと近い距離で薬剤師は働くことが出来ているといいなと思いました。

●他の学校では実習などで、金沢大学ではやらないようなこともたくさんやっていること。

●自分一人では考え付かないような事がたくさん知れました。同じ薬剤師を目指す仲間でも、夢がそれぞれ違い夢に向かっている話を聞いてとても感動しました。

●薬剤師が今やっている事だけでは 10～20 年先では不十分であり、もっと上のレベル（幅

広い能力)が求められるという事。

●他大学の学生と活発にディスカッションすることができ、今そして今後求められるニーズを自分の中で具体化することができました。

●10年後に求められる薬剤師像について様々な角度からみることができました。いずれの話からも10年先をみつめるには洞察力や観察力がいると思いました。

●10年後20年後の未来を想像して、それに対して薬剤師はどのように対応していくべきかを考える重要性。チームの方々と協力して1つのものを作りあげていく重要性。

●大学間ごとに考えや感じ方は違ったものの、皆将来を見すえ考えて行動していること。また薬剤師の将来を考えるうえで実習で学習した事は非常に役に立ったこと。

●様々な意見を持っている人達とお話のできたので、自分以外の考え方、理解の仕方について勉強させてもらいました。また薬剤師の専門性、これからのニーズについて不透明だったのが徐々に見えてきたので良かったです。

●10年後20年後のニーズについて、学生によって思う所は様々ですが、向いている方向は「患者さんの健康」はみんなが一致しているのだと再確認できました。

●将来薬剤師に求められる役割は現在よりも多く、沢山の考えなければならない点があるということが分かった。また今のスキルを上げていくことも必要だということが分かった。

●薬剤師が社会に求められていること。「ALL薬剤師」として考えたことがなかったので良いきっかけになりました。

●今後薬剤師が求められる知識や技能など、今自分が考える事以外の事が多くあった。

●薬剤師はもっと地域に関わっていかなきゃいけないのだと言われているが、今まで具体的なことが分かっていなかったのが、今回地域への貢献のその一例を見ることができてなんとなくわかってきたかなと思った。

●意見をまとめるのは難しいのだなということ。他人の意見に反対する自分の意見を言おうとすると、他人の意見をつぶすということが一番の目的になってしまいやすいのだなということがわかりました。

●自分が考える社会からのニーズと他の学生が考えるニーズと、どんな点で異なっていたり同じだったりするのか、について理解を深めることができたと思う。

●色々なトピックを議論しましたが、その中でお互いの意見をぶつけ合い、より良い意見を見つけていく事の重要性和難しさをとっても感じました。プロフェッショナルとしてこれからどんどんこの様な機会を更に良いものにしていくべきだと思います。

●10年20年後の未来について、様々な意見を聞くことで考えが深まったと思う。

今ありえない事でも将来はそれが普通になっていることもあるし、もっと医療をよくするためにやわらかい頭でいることが大切であると分かった。

●ロボットだけではできないことがある。皆、患者さんや医療の人とのコミュニケーションを大切にしている。

●近い将来における薬剤師の役割について言葉にするだけではなく、実際に演じることによって理解を深めることができた。

●自分とは異なる立場の人が違った意見を持っており、話し合いにより議論を深め合うことができるという点。

- 薬剤師のこれからを考える上で IT やロボットは切り離すことができない。
- 自分の感じていた薬剤師のニーズ以外にもたくさんの意見があり、また大枠としてのニーズの中でもさらに細分化できた部分もあったため、多くの意見から幅広く求められる薬剤師像を考える事ができた。
- 今後薬剤師の求められる社会のニーズは、ロボットでは代替が不可能な対応であろうということ。
- 薬剤師がこれから必要とされなくなるかと思っていたが、コミュニケーション能力など、必要性を再認識することができた。
- ロボットに出来ない事をこれからやっていく必要があるということ。 限られた時間の中で、話し合いやまとめをするのは難しいという事が改めて分かりました。「デスカンファレンス」など知らない事を他大学の人から教えてもらい知ることができました。
- 社会のニーズについて考え、10 年後 20 年後の未来を想像する中で、将来自分がどのように社会へ貢献できるか想像できました。
- 「薬剤師に求められるニーズ」について多くの方の意見を聞くことができました。様々な視点からのニーズがあるのだと感じました。
- 自分達が考えていることは、自分達の欲望であって、患者のニーズと直結しているかはわからないということ。
- ロボットを指す人が多いこと。自分の大学の中で数名の先生が話し学内で浸透していることでも、外に出ると全く異なる意見であふれていること。
- 一言でニーズといっても、多様な視点からの考えがあることを知ることができました。
- 薬剤師に出来ることはまだまだある。しかし実現するためには課題がたくさんあると考えられる。
- 薬剤師の担う業務が今後変化していくこと。ロボット化してはいけない部分があること（多職種連携、感情の理解）
- 今後の進路で、行政、企業、研究、臨床など様々な進路の人が集まっていたので、それぞれの考えを聞くことができてよかった。（机で向かい合って話す 2 人組の姿の絵を見てもそれぞれの進路の人で受け取り方がバラバラ）
- 今後薬剤師として、どういったことが望まれているのか。薬剤師にしか出来ないことは何なのか、考えて実際に行動に移していくことが、IT 等が発展してきている現代においても重要だということを学んだ。
- 時代の変化によって薬剤師の業務や役割も少しずつ変化していくのだと感じました。
根本的なことをして、患者さんや地域の人のために働くことが大切だとわかった。
- キーワードとして“ロボットにできないこと”というのが上がり、みなさんが人間的な画で社会のニーズに応えたいと思っていることがよく理解できましたし、私自身も同じ考えだったので良い議論ができました。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- ニーズというのを薬剤師目線で又は、All 薬剤師ではなく病院・薬局薬剤師の目線で考えるのがあまり理解できてなかった。今日の内容は考えるのが難しかったが大切な内容である

とは思った。

●今日挙げた内容が仮にできるようになった時、現実問題 6 年教育でおさまるのか疑問に思いました。

●受診勧奨や処方提案はニーズと言えるのかという点は疑問に思いました。

●将来の社会のニーズというものを具体的にイメージする時に、少し出題者の意図を理解するのに時間がかかりました。

●社会は何を薬剤師に求めているのか。

●未来の薬剤師のロープレ、未来についても考える事も大切であるが、今何をすべきかが自分が知りたい部分なので、もっと討論したかった。

●社会へのニーズ。

●社会のニーズってなに？

●ニーズに関して、多方面から考えられることは分かったが、様々な場面でどのようなニーズを求められているのかを考えきれなかった。

●ニーズについて。班の中では結論は出たが結局何なのかはよく分からなかった気がする。

●今後自身が薬剤師として、どういう取り組みをしたらよいか。

●ニーズが分かったような、分からなかったような。

●実際の現場のニーズはどうなっているのか、分からないまま話を進めてしまったかもしれないと思いました。

●20～30 年後の将来を予測する事が難しく、そこで必要されるニーズを自ら見出すことができなかった点に、現場・患者さんが求めるニーズをまだ理解できていないと感じました。

●10 年 20 年と時代が進むことで、ニーズがどのように変わっていくのかもっと理解を深めたい。

●「薬剤師のニーズ」について。薬剤師の最終的に求められるニーズは「国民の健康を守ること」であり、その下に細かいニーズがあるのではと感じた。またそのニーズは時代が変わるにつれ、薬剤師のできることが増えるにつれ変わるのではないかと感じた。

●“ニーズ”がどうしても薬剤師の職能拡大、結局自分が薬剤師になって何がしたいのかということに重きをおいていることに気づき、「社会のニーズ」の社会のとらえ方に差があると思った。

●KJ 法で話題をまとめることが難しかったです。

●不変なニーズとは？薬剤師が本質的に求められうる事とは？

●KJ 法で話しあったことをまとめたが、それぞれの島のつながりを考えるのが難しかった。

●10 年後の明確な薬剤師像が想定しにくいと感じました。どの班も素敵な意見で明るい未来を想像していましたが、その未来を実現するために現在から必要なアクションまでに議論がいきわたっていませんでした。

●在宅について都市部のことはあまり学ぶことができていなかった。今日班の方々に尋ねておけばよかったと感じる。

●10 年後 20 年後と問われていても、その時の世界がどうなっているのか想像しづらかったもので、どうしても現在ベースでの議論になってしまいました。

●all 薬剤師へのニーズ。やはり臨床に重点を置いてしまいました。せっかく研究分で働こ

うとしているメンバーがいたので、その点を深めていけたらとも思いました。

●10年後の薬剤師の活躍について討論しましたが、現在の現場の設備や環境、今後開発される技術について知り、将来を想像してみたいと思いました。

●10年後 20年後の想像がなかなかしづらかった。

●細かく想像する事が難しかった。例えば、今もやっているが足りないと感じることを具体的にどう改善したらよいかなど。

●KJ法での討論が初めてでしたので、最初は理解ができてなかったです。

●10～20年先のビジョンがはっきりせず具体的にどうすればいいかどうしていくべきかということ。

●「10年後」は遠すぎてどうしても議論が曖昧なままになってしまいました。ただ他の考え方を知り、想像をふくらませることができたと思います。

●内容細かくなりすぎて討論が止まってしまった。

●10年後 20年後を想像した時に細かいところまで具体的に考えることはあまりできませんでした。全員が思ったことを言える雰囲気づくりは難しいと思いました。

●10年後 20年後を考えた際に、あるべき薬剤師像が今と何が違うのか（特別未来だからではなく）今日も求められているのではないか。

●一度ですぐに話が飲み込めなくて、理解が遅れたため討議への参加が少なかったことが少し残念に思っています。他はすべて楽しく参加させていただきました。

●理解できなかったわけではありませんが、world cafeの時にわりと話が脱線してしまいがちだったので、けっこう難しいWSだと感じました。話しやすいので初対面同士に向いているWSですが、話を戻すタイミングが難しいと感じました（司会ではなかったのですが）

●劇だと議論の内容を伝えるのは難しく、理解するのが困難な部分もあった。

●経済的に貢献できること。薬剤師がかせぐこと、医療費を削減すること、これらについてもっと考えてみたいと思いました。

●10年後 20年後という今予想できない事に対して、薬剤師の職力を生かすことが何かと考えることは難しい。

●薬剤師の存在をアピールしていくとの話が良く出たが、どうしていくのが最善なのかイマイチ思いつかなかった。

●梅田はアクセスしやすいと思うのですが、なぜ今まで便利でもなければ特別にそこである必要があるとはあまり思えない府中での開催だったのでしょうか？

●10年後 20年後という設定（現在のニーズ、改善策との違い）

●今後薬剤師に求められる「本当のニーズ」です。私達の議論の中では確証のある情報だけではなく経験や想像も一般論として取り上げていたため、真のニーズとはズレた可能性があります。これから様々な事に興味関心を持って学んでいくことで更に精度の高い議論ができると思いました。

●ロボットの導入がどこまで進んでいくのかという問題に対して納得できる部分もあるが、本当にそこまで機械化が進むのだろうかと思った。

●KJ法で出た意見について、大まかに内容の理解を深めることはできたが、細かな内容について掘り下げられない部分もあった。

- 実際に 10 年後 20 年後にどのようなニーズが求められているかまとめて想像する事はできたが、結果として具体的な場面を考えるのは容易ではないと考えた。
- 10 年後のビジョン等はまだ薬剤師として働き始めていないこともあり、明確な姿を想像しづらかった。
- 自分達も課題として取り上げたが、機械化が進む中でどこまでロボットに可能で、人間の必要性がどこにあるかはもっと考えを深めたいと感じた。
- ドローンを使った薬剤配達の話をもう少し聞いてみたかった。
- 薬剤師が一から処方設計を行うにはどうアプローチすればいいか。
- ロボットにはできないこと（人にしかできないこと）について具体的な例
- 未来という不確定要素が多い中でニーズの変化を予想して討論する中で、テーマと一致せず軸がぶれてしまうことがあり、着目していかなかった意見の重要性は理解できませんでした。
- あくまでも「私達が考える、私達へのニーズ」なので外側から見た意見があるといいかなと感じました。
- 何故、人はロボットに対してうそをつくのか。
- 私はロボットが薬剤師に置き換わることはないと思います。
「ニーズ」という言葉の解釈はそれぞれかと思いますが、少し釈然としないものがいくつか見受けられました。
- ディスカッションが発表の目的に関連した部分で行われているのではなく、むしろ本質的でない部分で展開されていたので、ただのあげ足取りのような気がした。
- 今現在での臨床での問題、課題。
- 10 年後など予想できる範囲で日本薬学会の方が考える薬剤師業務の変化。
- タスクフォースのひとや卒業生のひとたちに、どこまで頼ったり聞いたりしていいのか（途中で調剤上のシステムのことでわからないことがあったとき、質問したらいろいろ調べ下さったのは大変ありがたかったです）
- 薬剤師でないとだめなこと、機械が行ってもいいことの境界線。
- 薬剤師が実際、薬剤師以外の人からどのように思われているのかという所は色々なセッションで話す毎に考えたがわからない。
- KJ 法でカードの文字が小さくてよく見えなかったなので、内容が読み取るのが大変でした。

7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- かかりつけ薬剤師の推進をしていますが、以前精神科の門前薬局で精神疾患をもった患者さんから 1 日何回も電話が来ると聞いたことがあります。かかりつけ薬局はどこまでメリットがあるのか気になります。
- 他の大学の人は積極的に意見・質問されていて尊敬して、見習いたいと思った。
- どのお題でも、抽象的なところはすぐに意見が出ていましたが、もう少し具体的で深い意見交換ができたらと思いました。
- ニーズがあるからには対応していくものだと思う。対応していき満足できれば新たな問題が生じるから、ニーズが変わらないという事はないと思う。

- 全く関係ないのですが、薬学会はヤクガッカイという読みで間違いないのでしょうか。
- 今日のテーマはニーズだったので、最後まとめとしてニーズの答えが知りたいと思ってしまいました。
- 時間が足りないです。
- もっと先生やタスクフォースの方のお話を聞きたかったです。
- 今日は周りに頼りきっていたので明日はもっと頑張りたい。
- KJ法で使うシールは貼かせるタイプの方が、やり直しに時間がかからないかと思いました。
- 班員とのディスカッションを通して、幅広い視野を持つことの重要性を改めて感じました。
- 自分達が考える事に対し、他職種の方や外部の人からの目線や意見を聞いてみたい。
- みんなの柔軟な発想や意見に刺激をうけました。
- 企業へ就活していたことも有り、議論に参加しきれない部分も有るが、すごく新鮮で良い機会と感じます。
- 薬剤師がオーバーラップを恐れずに行動するべきという話に大変共感しました。私は救急医療研究部という、BLSIALLSのWSをおこなう部活に入っていますが、どうしてもミニドクターに将来になってしまうじゃないかという喝藤とずっと戦っていました。自分の大学では、オーバーラップを恐れずに行動する先生が多いので、他大の先生からそういう意見をきけてよかったです。
- 他大学の薬部学生と話すことでそれぞれ目指すものがあり、様々な意見があったので興味深かった。将来のことを考えると、10~20年いろいろな変化があるとそれぞれ予想でき、視野を広げていく必要があると感じた。
- もう少し時間があれば良かった。
- 他大学の多くの方の意見を聞けて、視野も広がり充実した1日となりました。
- 私は企業MR職を志望し内々定を頂いており、就職活動中に企業志望の方との討論を重ねる事はありませんでしたが、様々なバックグラウンドの方々と新しい価値観に触れることができました。
- KJ法の発表後、いずれのポスターも近づいて見て回る時間があると各カードが良く見えると思います。視力が悪いただけだと思いますが…
- 時間が長すぎてもだれてしまうのかもしれませんが、「もう少し話し合いたい」というシチュエーションが多々ありました。
- 比較的リラックスして参加出来ました。もう少し発言していけばという反省を少しでも明日にいかしたいです。
- 移動が大変だったので、3Pの会場でのパワーポイントでの説明はPでの会場でやってほしい。
- あっという間の1日で充実していました。
- いろんな考え方を聞けて良かった。
- もっと多くの時間があれば、より良い話が出来たかもしれません。
- 午前中参加出来ずとても残念でした。とても有意義な議論が出来ました。ありがとうございました。

●グループで討議をするにあたって、周りの意見と異なる意見を述べることの難しさを感じました。ただ討論の中で全員が同じ意見をもつ訳ではないというのは当たり前の事なので、今後は自分の思ったことを率直に言っていきたいと思います。

●とても勉強になりました。

●部屋の机が大きすぎて少しまとめなどがやりにくかったです。

●タスクフォースの方々に重要な指摘等を議論中いただきました。とても参考になりましたが、自分たちだけで答えを導いていけなかったのが少し悔しかったです(ごく一部ですが)。もっと巨視的に物事を捉えられるようにきたいです。

●他の班の発表を聞くことで、自分達では出てこなかった意見や視野を発見できとても有意義だった。SGD の際にタスクフォースの方々が進行をサポートしてくれてスムーズに議論が出来て良かったです。ありがとうございました。

●タスクフォースの方に良くサポートして頂き助かりました。ありがとうございます。

●初対面の方との意見交換はとても貴重だった。

●薬学生からのフィードバックという当初の目的はもう関係ないかんじなのでしょうか？そのような要素を全く感じません。今の薬学教育について不備なこと、もっとこうしてほしいということはあると思うので、その意見を取り入れて改善していったほしいです。

●劇について細やかな要点や背景になったニーズについて、もう少し各班の劇以外の発表があれば話し合いが進められたと思う。

●色々な考え方のメンバーと意見交換が出来て良かったです。

●予定がきつきつだったけど楽しかったです。

●他学の生徒の意見を聴くことで、今まで自分が思い浮かばなかった発想を得ることができ大変刺激になった。

●劇はある特定のシチュエーションの想像ができて面白かった。

●少し色を超えた交流を持つ機会があっても良いと思う。

●第Ⅰ部の World cafe で多くの雑談をした事で、その後のセッションにスムーズに入る事ができた。突然議論をするよりも好友を深めてから行うことができたのでとても楽しく取り組めた。

●10 年 20 年後の将来を想像して、社会のニーズに応えている自分を演じたところ、ⅢA、B、C とともに共通して機械というツールを取り込んで劇をしていたので面白かったです。

●多くの意見を知ることが出来て良かった楽しかった。知らない人と話せて自分が知らない世界を知ることが出来た。

●劇をするのも面白かったのですが、もう少しじっくり少人数でディスカッションしながら、将来のニーズや薬剤師について考えてみたかったと思いました。

1つのセッションをもう少し長くしてじっくりディスカッションしてみたかったです。

●セッションに準備の時間がもう少し欲しかったです。

●久しぶりに熱い討論をしてとても楽しかったです。

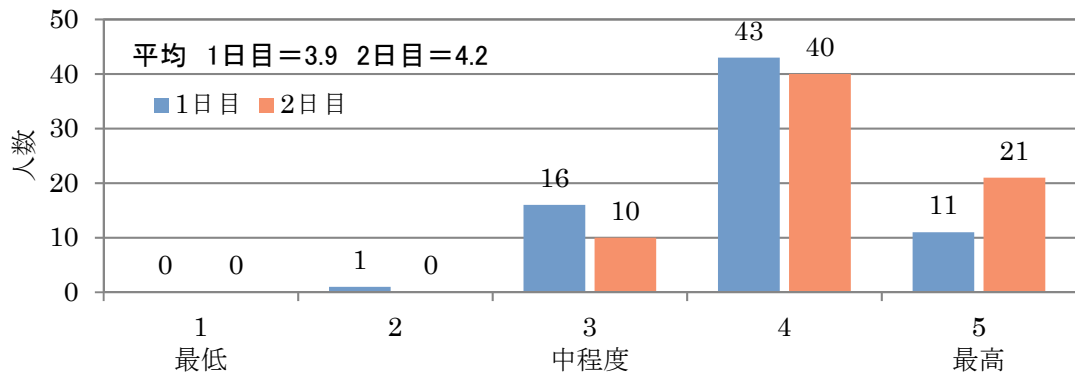
●久しぶりに他人と真剣なディスカッションをしてとても有意義な時間でした。

●タスクフォースや進行の方が非常に努力して運営されていることが伝わってきました。ありがとうございました。

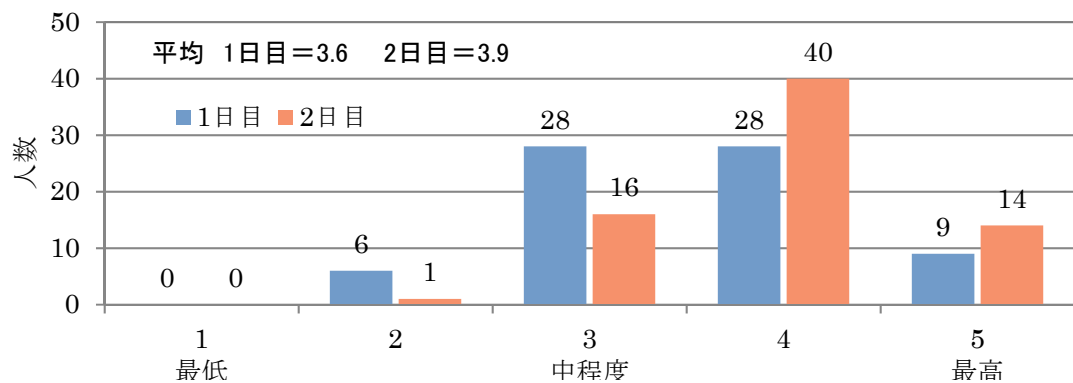
- 新鮮な意見や考え方が多くあり、自分に影響を与えるものがあつた。
- 時間配分が適切であると感じました。ワールドカフェのスライドとても分かりやすかったです。
- 寸劇発表後の **QA time** が長いように感じました。できたら班で感想や意見を話し合う時間を設けてもらって、また発表するようなことで時間を過ごせたらいいなと思いました。どのタイムも楽しかったです。
- 他大学のたくさんの人の話を聞けてとても楽しかったです。
- 初めて会う人しかいない中で、楽しい時間を過ごせた。みんなきちんと意見を持っているなと感じました。
- 様々な方の考え方が知れてとても良い刺激になりました。発表時間が短く伝えきれない部分もあつたと思います。限られた時間だと思いますが、もう少し発表時間があればいいなと思いました。

第2日目の評価

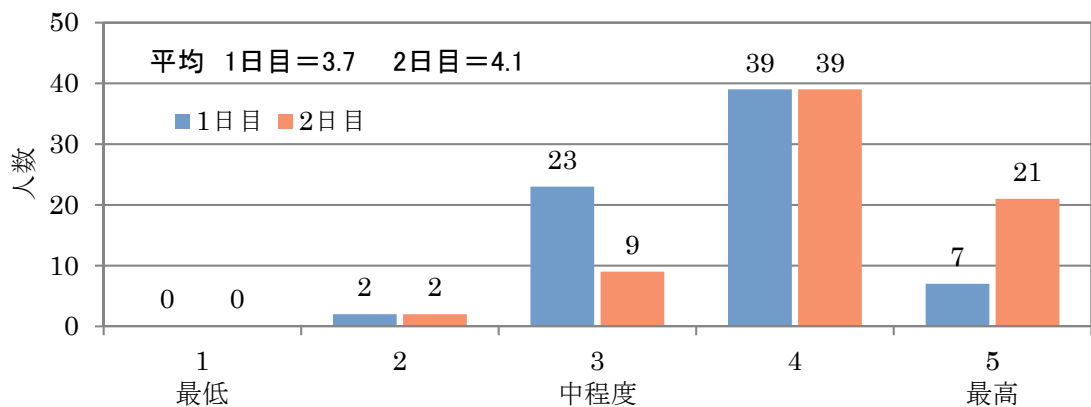
1. 今日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか。



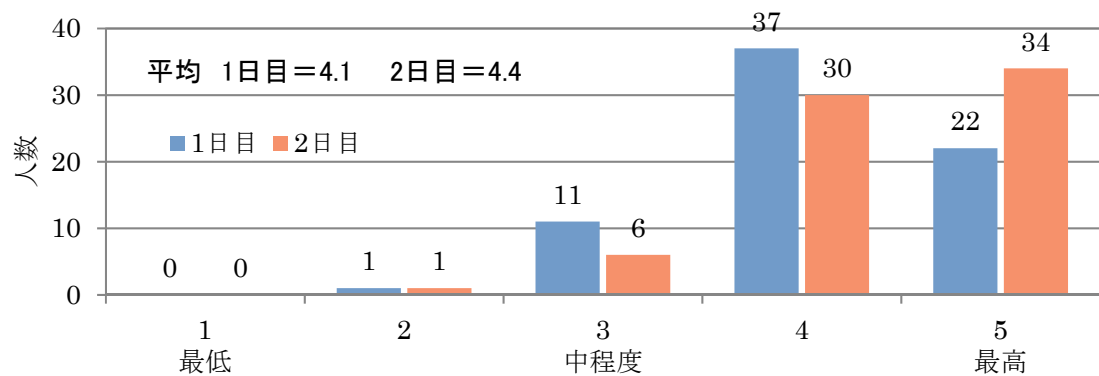
2. 今日、あなたは討議にどの程度参加されましたか。



3. 今日の内容は、あなたのニーズにマッチしましたか。



4. 今日のタスクフォースの仕事は良かったですか。



5. 今日、よく理解できたことは何でしたか。

●今未来の薬剤師には色々と解決すべき課題があるのだなと皆思っているのだということ。

●薬剤師の仕事がロボット化しても、変わらず薬剤師は必要であると確信した。

薬剤師のプロフェッショナリズムについて、必ずしも専門性が高いことがプロフェッショナルになるわけではないということが分かった。もちろん専門性はとても重要だが、それにプラスして使命感、責任感、思いやりの気持ちなど、医療人としての態度がプロフェッショナルリズムに欠かせないものであると気づいた。

●ロボットにはできないヒトとしての関わり方についてなんとなく分かったような気がします。

●機械化が進む中で薬剤師でなければできないこと。目標のためにどのような行動をとっていくべきかということ。医療人としての薬剤師の責務。

●①薬剤師はスペシャリストというよりは、社会的使命をおったプロフェッショナルであるということ。またそのためには、どのような社会的使命があるのか、ニーズがあるのかを知る、それに答えられなければならないと思った。

②①を意識して自分の行動宣言を立て実行する必要がある。

●将来のことをたくさん考えたあとに、今自分ができること、自己目標を考えることで、より明瞭で具体的なイメージを持てたと思います。

●10年後20年後でも仕事の内容は異なるが薬剤師が必要であるという事。

ニーズが変わるだけであるという事とニーズを生み出すということ。

患者さんを守るために今よりもさらに努力しなければいけないという事。

●昨日以上に事細かく世間からのニーズがあったり、その元になる Seeds のようなものは身の回りにたくさんあるとういうことを感じました。

普段周囲に製薬系に進む方がいないのでSGDを通して製薬で働く薬剤師視点での話を聞いたのは良かったです。

●プロフェッショナルとスペシャリストの違いについて、医療人としての薬剤師のあるべき姿（第Ⅲ部のディベートから）自分がこれからやるべきこと。

●参加した薬学生が熱い気持ちを持っているということ。

●プロフェッショナルは使命を背負うこと。

●参加している人達が明確な目標を持ってこのWSに参加し、明確な目標を持って自身の夢に向かって進んでいること。

●プロフェッショナルについて講演がすごくためになった。自分でも具体的に考えたことがなかったので、よいきっかけになった。

●現役、薬剤師の方を交えて、学生の様々なことに触れることができ良かったです。

特に最終討論では、各大学の会話レベルが高く、様々な視点で未来を見ていることが分かりました。

●Specialist と Professional の違い。

社会のニーズに答えていくことの必要性を理解できました。

●未来を見据えて薬剤師としてできること、やるべきことを様々な視点から検討することができました。

●10～20 年後にロボットが作業する時代になっても、薬剤師が薬剤師だからこそできる業務を行うことについて、今までよりもより様々な仕事ができるといことは、とてもポジティブな考えであり理解できた。

●今日ここにいる皆は、これからの薬剤師に対して、真しに考え向き合う姿勢をもっていること。また、タスクフォースの先生方も教育が好きで熱い思いをもった方だということ。

●国民の笑顔のために、ALL 薬剤師としてできることはたくさんあるということ。

個人の行動宣言・計画を立てることで「社会のニーズ」に応えていき、そのニーズを探求していきたいと思えた。

●医療のロボット化を考えたとき、人にしかできないことは何かという問題に、以前は鑑査や会話、感情を読みとるなどがそうだと思っていた。人工知能にも今は相談に答える機能があると知ったけれど、その中でも患者のつらい苦しい気持ちに寄りそうことができるのは人でしかないと再確認した。

●10～20 年後を見すえた自らの行動宣言と計画を考える事の重要性が理解できました。

●自らの意見を最後にしっかりとつづることができた。

●今日はタスクフォースの実際に現場ではたらかれている方のおはなしをきける機会があり、働く前と働きだしてからの変化などきけてとてもためになった。

●私の薬剤師としてどうありたいかについて他の人の意見も聞きながら考え、まとめることができた。

●社会・患者にニーズに対して、今も未来も変わらない部分があり、そこを更に成長させていく必要があると思いました。

●グループで患者さんに対して薬剤師ができるプロフェッショナルなことの根定には、患者さんを良くしたい、助けたいという思いがかくれていた。普段無意識に思っていたことを改めて気づかされてすごく有意義だった。

●薬剤師の行動宣言を聞いて、それぞれにどんな目標を持っているか具体的に理解ができた。

●スペシャリストとプロフェッショナルリズムの違いや、薬剤師がプロフェッショナルリズムを発揮することの重要性を理解することができた。

●スペシャリストとプロフェッショナルの違い、今回のワークショップに参加しなければ考えることのない問題だったと思う。

●自分か他職種についての理解ができていなかったことに気付いた。患者のための医療を考えた時、今までは医師と薬剤師しかその時の登場人物しかなかったが、ワークショップから患者全体を見る視点が広がったと思う。

●約 8 ヶ月後に大学を卒業し、社会人として働き始めるにあたり、“社会的責任”に応じるということがプロフェッショナルとしての人生を歩む上で重要であるということ。

●未来のために今できる事を考えないといけない。

●プロフェッショナルについて考えることができた

●10 年先 20 年先を見すえた時にどのような問題がでてきて、それに対しどう解決していくのか、プロフェッショナルという目線で考えることができた。

●まだみんな薬剤師のたまごだけど、みんな使命感にもえててすごいこと。

●プロフェッショナルというものについて貴重な考え方を聞くことができました。

●自分の意見を述べることは大切！

患者だけではなくその周りの家族にも配慮を！

患者には物語があるということ。

●具体的に将来の姿を想像し、実現するための計画を立てることでモチベーションの向上になりました。臨機応変に対応するために論理的に考え計画性を持って課題に励む重要性を理解しました。

●スペシャリストとプロフェッショナルの違いについて知ることが出来た。

同じ質問に対して、据え方 1 つで様々な角度から考えることができると知った。

●「行動宣言」について

●参加者の方が患者様のためにを深く考えていることが、ディスカッションの中から非常に伝わってきました。

●薬剤師の変わらないニーズについて、多くを議論し、理解を深めることができました。将来、機械化や IT 化によって更に薬剤師としての人間性や倫理感が問われてくると思いました。

●今まで大まかにしか描けていなかった行動宣言の内容を深く考え、具体的な言葉にできたこと。

●患者ではなく人として接する。発言することを恐れない。

●行動宣言を考えるにあたって、今できていることをより進めるのか、新しいことをするのか様々な考えが分かった。また視点がたくさんあったので多くの意見を知ることができたので今後に活かしたいと思った。

●社会のニーズに応えるうえで自分たちが何をすべきか整理し、理解することができました。社会のニーズというと大きいことのように思いますが、普段の小さな行動を意識して変えていくことが大きな変化をもたらすということを感じられました。

●プロフェッショナルの概念やプロフェッショナルになるためにすべきこと・できること・心構えなど。

●社会のニーズの動向。薬剤師として何ができるか考えることができた。

●ロボットではなく、人にしかできないことについて、昨日よりも具体的に言葉にできたことがよかったです。自分の将来について、昨日までよりも具体的に言葉にすることができました。利他の気持ちを持つことで、意見を言ったり行動したりできるようになること。

●10～20 年後、薬剤師が患者のニーズに応えるために、自分自身が行うべきことを共有することでより今後の方向性が見えた。

●薬剤師の 10 年後 20 年後に向けて、ニーズを考えることによって、自分自身がこれから何をしていけばいいかが理解できた。また他の大学の方がどういったことを常々考えているかなども少しだけですが理解することができた。

●機械でもできること、ヒト（薬剤師）にしかできないこと。そのすみ分けが大切だと思いました。

●木下先生の授業は、医療人のプロフェッショナリズムについて非常にわかりやすい内容でした。

●皆、患者さんを想う気持ちは同じで、自分を高めようという意識が強い。

- プロフェッショナルについて
- プロフェッショナルリズム。自分がこの先どうしたいか
- 薬剤師になるにあたって今後どのように行動していくべきか改めて明確にすることができた。

スペシャリストとプロフェッショナルの違いをきちんと理解できていなかったのが今日の講義で分かりやすく教えて頂いたのが良かった。

- 10年後、20年後には薬剤師の職能が色々な意味で確実に変わっている。
- 「行動宣言」という形で自分たちが求められていることを、できることを具体的に考えることができた。
- これから薬剤師、また医療人としてのあり方について様々な意見をきけたので今まで以上に理解が広がりました。
- コミュニケーション能力の重要性。学ぶことをやめてはならない。
- 今後の薬剤師に必要なこと。

そのために、いまからどういうことをしていく事が大事か。

- これから、薬剤師として働く中で、何に気を付けて、人と接したり、行動していくべきなのかがわかった。
- 「行動宣言」として自分たちが将来や今できることを具体化したり、考えたりすることによって、よりよい医療をつくっていけるなと思いました。
- 「professional」と「specialist」という言葉の意味が、仕事の内容によっては混同している部分があった。今回 professional として薬剤師が求められる社会的貢献について、昨日の議論も踏まえつつ真剣に話し合う事ができ、当初よりも自分の考えと理解が広がった。
- 思っている、考えていることだけではだめで、行動宣言をして、実際に行動して、評価、フィードバックをすることが大切であることを学びました。
- 技術が進んだとしても、患者と対応するという、人間臭さが必要とされる場では、薬剤師の仕事はなくなるまいだろう。
- 今後薬剤師は医療に対して、どのような態度で向かっていけば良いのか。ヒトとヒトのつながりの大切さ。
- 人間にしかできないことはまだまだたくさんあるので、自信を持って薬剤師としての仕事をしていきたいと思った。
- 他の薬学部生がどのような薬剤師を目指しているか。何を重視しているのか。

6. 今日、あまり理解できなかったことは何でしたか。

- 皆、薬剤師はあれもやるべきこれもやるべきと言うが、薬剤師本人の負担が増加してしまうことについては何も思わないのだろうか？と思った。医療人だからといって何もかもぎせいにできるわけでもないし、無理なく案を実行していくためにはどうしたら現実的に考えた方がためになるのではと思う。
- 今日決めた行動宣言について今からできることは何かもう少し練っていかなければならないと思いました。
- 人の気持ちは分かる機械について。医療経済のとらえ方。

●人にしかできないこと…なんとなくは分かるが、もっと医療が進んだとき分からなくなりそう。

●ワークの内容を理解するのに少し時間がかかりました。

●社会が求めるニーズがどこにあるのか？

●医療経済や保険制度について不勉強な所で、ぜひディスカッションに参加したかったですが、中々難しかったです。

●機械の進歩はどこまでいくのか。

●プロフェッショナルリズムを発揮すべき場面が広すぎて具体的なイメージをつかみにくかった。

●薬剤師と機会が今後どういう住み分けをするかです。私は、服薬指導中、相談を取られてしまっはいけないと感じています。

●昨日のアンケート結果の発表にもあったように、多機種や患者が薬剤師にプロフェッショナルとして求めることなども知りたかったです。

●ALL 薬剤師の活躍を考える上で臨床から離れている企業や行政の人間としてはどういった働きかけができるのか意見交換したかったです。

●行動宣言が薬剤師となってからの行動なのか、今現在としての行動なのかが難しかった。

●処方権（自由討論）や医療経済への薬剤師のかかわり方について悩まされる部分があった（もつべきかもたないべきかなど）

●近い将来の機械化について薬剤師ができること、貢献できることが予想することが非常に難しかったです。

●プロフェッショナルとスペシャリスト、もっと万人に伝わるように言いかえられないかと思った。

●機械化について。すべて機械化されても人の気持ちはくみとれないという人もいたが、人も気持ちをすべて理解できないのでは？（努力自体は大切だと思う）

●未来のことを考える機会を与えられ、私は調剤報酬の内容に疑問を感じました。背景には患者のニーズに応えるための薬剤師の様に思います。しかし点数化することで、本当に薬剤師の人々は利益より患者さんのことを1番に考えた対応はできるのか不安に思いました。

●処方権についての議論で約束処方があるのなら処方権もいらんんじゃないかという意見を聞いて、処方権の一部を薬剤師が担ってもいいと思っていた。

意見を考え直すキッカケになり、処方権について自分の中での答えをあらためて考えていきたいと思う。

●他の班でまとめた内容を1つにまとめるのは少し無理があると思った。（その考えに至ったバックグラウンドも違うので）

●プロフェッショナルについての考え方について、現場の薬剤師の方々の話がもっと聞きたかった。

●進化の速さの程度。10年後の未来について話していた時にロボットが機械的な作業を担っていくことは想像できましたが、最後に太田会頭がYMDAでAIについての指針を決めるという話を聞き、予想以上にロボットが医療現場に入り込む程度（診断ptc）

とその速度が自分が思う以上に速いと感じたので。

- 全ての薬剤師に求められる変的な役割。
 - 医療人におけるプロフェッショナルについて。
 - 上記のことを今現在の自分が何をしていくか、行動していくことを考えた時、少し難しかった。
 - 医療経済や処方権の問題など。まだまだ多く考えるべき点が、あとそれに対してしっかり自分の意見を持ちつづけたいと思いました。
 - 高額な薬を使用することと経済の破綻について。
 - 自分自身のスキルアップに着目したため、薬剤師という職種全体を考える時間がもっとほしかった。
 - 昨日の劇の内容をプロフェッショナルであるために必要なことをむすびつけるのが、少しとっかかりにくかった。劇の内容のせいかもしれませんが。
 - これから世の中でどう変わっていくのかまだまだ勉強不足だと感じました。様々な事に興味を持って、自己研鑽していきたいと思います。
 - 劇の内容に付け足し？の意味はあまり無いように感じた。(行動宣言とはぼかぶるので)
 - これから世の中がどう変わっていくのか、まだまだ勉強不足だと感じました。様々な事に興味を持って、自己研鑽していきたいと思います。
 - 他班の行動宣言についてもう少し深く聞きたかった。
 - 機械にはできないがヒトにはできる…具体例が難しい。
 - 薬剤師が専門性を生かして活動するか、オールラウンダーとして様々な分野に手を広げるか、どこまで行うのが最善かが難しいと思いました。
 - 今現在の時点では、セッション中のことを分かっているつもりですが、今後考え直したりすると疑問点も出てくるかもしれません。
- 他のグループのディスカッション内容をもっと知りたいとは思いました。
- 三班合同で内容をまとめる時に視点が違ったことと、視やが違ったので理解が難しく、時間までに思うことが晴れなかった。
 - 行動宣言を行うにあたり、誰に対してフォーカスをあてれば、国全体の利益になるか分からなかった。
 - 薬剤師の処方権について
 - 上の内容のレベルのことを、大学の授業だけで学ぶのは難しいと思いました。
 - ロボットをどこまで利用することができて、どこをゆずらないべきか…
 - SGD の後、それぞれの「行動宣言」をグループごとに1つにまとめる必要があったのか疑問に残りました。異なるバックグラウンドに基づいて考えたものを、無理やり1つにまとめないで、Small group それぞれの意見が知りたかったです。
 - 「～のために」という部分で人によって考え方や重点を置くところが異ったため、理解することが、飲み込むところが難しい場面がありました。
 - 何が本当に求められているのか。今の現場はどうか。
 - 薬剤師が患者の治療に対して、どこまで関与できるのか。(してもいいのか)
 - 10年後、20年後、実際はどのような未来がまわっていて、自分が何をしているのか、
 - 今まではSとして討論していたことが、Pとなるととても意見をまとめるのは難し

いし、自分の思う通りに反映されないこともあるなど改めて感じました。

- 患者さんの背景を知り、「人と人」という関わりを持って接したいという宣誓を出し、周りのチームにも類似したものが出たが、背景を知ろうと深追いしてしまい、患者さんから「もうこの薬剤師は嫌だ」と言われたという方の話を伺ったことがあるので、どこまで入り込んで行くかという線引きはまだ理解しきれなかった。
- 社会が薬剤師に求めているニーズを考えることがやはり難しかった。
- 処方権の獲得について、ほとんど考えたことがなかったため、自分の考えを出しづらかった。
- ロボット時代がやってくるが、その中で医療人はどうすればよいのか
- 患者さんが薬剤師に何を求めるのか。また、どうすれば心を開いてもらえるのか。
- ラストの質疑のところで医療費のことを質問してる人がいて、なぜその疑問に至ったのか気がになりました。

7. その他のご意見（ご自由にお書き下さい）

- 処方権の議論が非常におもしろかったです。自分が思っていた以上に処方権の一部を薬剤師が得ることに反対の人がいるのだと感じた。処方権に関して今後は薬剤師の能力が試される場だと思う。（私は処方権を一部もらえることに賛成です）
- 思ったことをすぐに文章として表現できる能力は重要であると思いました。
- 行動宣言が、今現在（学生の今）の行動なのか、薬剤師になった後の想定なのか、班ごとに認識が違ったのが少し気がになりました。
- 全体2つの班の発表会を聞いて良かったです。医、薬、看、患者さんを含めたディスカッションが必要と思いました。
- 限られた時間の中で話したいことを短くまとめて話すのはムズかしいと感じた。
- 大きなテーマについて道しるべなく議論することはあまり経験したことがなかったですが、その大変さを感じることで自分のめざす職業の担う重さを再確認できました。
- 朝が少し早いです。自由討論を行う際は、皆が前を見て話すのではなく、お互いが向き合って討論した方が、顔や表情などのノンバーバルコミュニケーションにも重要視している薬剤師私たちにとっては良かったと思います。
- 様々な意見を聞き、皆が志を高くもっていることが分かりました。とてもいい刺激になりました。ありがとうございました。
- 2日間を通して、非常に有意義な時間を過ごすことができました。この経験を大学に持ち帰り共有したいと思います。ありがとうございました。
- 自分が今日たてた行動宣言を考えるに至ったプロセス、内容は今後覚えていきたいと思う。
- 時間がすごく短く感じました。
- パワーポイントをもっと効率よくまとめたかった。
- 2日間のワークショップを通して、自分自身が薬剤師として、社会にどう貢献できるか、又はすべきか深く考えることができました。
- 箱根より西の人の積極性がすごい。このユーモアがあればもっと薬剤師として活躍できると思った。

- ニーズを探し、行動目標を定めるという内容でしたが、現状を見つめ直したり課題を挙げる等、その探し方をもっと誘導しても良いと感じました。深掘しきれず、未熟なワークになっていた時間があつたと思っています。
- やるべき内容が多いので、少なくともいいので内容の濃いものにしたい。
- 総合討論の際（内容を忘れてしまう）など、全てのグループのスライドが見られるよう工夫してほしいと思った。or 1班ずつ質疑応答の時間を設ける
- 最後の自由討論では学生だけではなく現場の薬剤師である OB の方々の意見が聞けて非常によかった。
- 10年後20年後に向けて、今現在から取り組んでいくべきことについて、それぞれ違う意見を持っている中で、自由な意見交換を通じて1つの行動宣言を練り上げたことで、非常に大きな達成感を得られました。
- 今後はプロフェッショナル、専門性が重要になると思う。強みをもつことが重要だと実感した。
- 発表者になってすごく緊張しましたが、タスクフォースの方や卒業生の方、班のみんなが応援してくれて協力してくれたので無事にできました。ありがとうございました。
- 実習のことなどをもっとみんなで意見をだしたかった（ここが良い悪いなど）
- 朝の集合時間はもう少し遅くしてほしかったです。
- 個々人の行動宣言の発表時間をもう少し頂きたかった。
- セッションⅡの「真に求められるプロフェッショナリズムを共用しよう」について、時間が短かいと感じました。2日間通して仲良くなれたⅢBの人達の意見をもっと聞いて、卒業生の方達と討論してみたかったです。
- 時間が足りない！
- 全体討議で質問や発言ができなかったことが心残りです。常に与えられたことをそのまま受けとめるのではなく受けとめながら疑問を見つける力や自分の意見を発言できる力を身につけたいと思いました。
- 昼食時間が短くなり、他のグループのプロダクトを見れなかったのは残念でした。
- 1日目を通して私がすべきことを2日目で具体的にできました。
- 実務実習についてですが、私は病棟担当2ヶ月目の薬剤師のもとで眼下をみせていただきました。ほぼ薬物治療に薬剤師が介入しておらず、薬剤師の先生も何を質問しても分からない状況だったので、そういったところが不平等がもう少し改善されたらよかったと実習で感じました。自由討論の時間がもっと長くほしかったです。
- とても楽しかったです。
- 同期の人たちで、それぞれ進む道が違っており、各々の分野からの意見を多く聞くことができ勉強になった。
- 討議の中で患者に寄り添える薬剤師ということで、患者物語を把握する（NBM）とあつたが、今までは“物語”と思っていなかったなので、新しい発見だった。
- 学生同士の意見をまとめる時に、学生主体でない部分が多々ありました。未熟なところがたくさんあり、貴重な意見をいただけるのととても良かったのですが、もう少し学生間でのやりとりができればなと思いました。

●6年制になった成果は得られているのか。

大学の授業は将来につながらないものもあると思う。

●先輩方やほかの大学の人達の意見が聞けてとても参考になった。

●今までⅢ班だけの討論だったけれど、今日はⅠ～Ⅲ班まで一緒にしてみて、少しずつ意見がちがうなと感じた。

●2日間かけて1つのグループで話しあって、結論を出した行動宣言を3つのグループで統一するのは難しく、もう少し時間がほしかったです。

●もう少し朝が遅いと嬉しいですね。

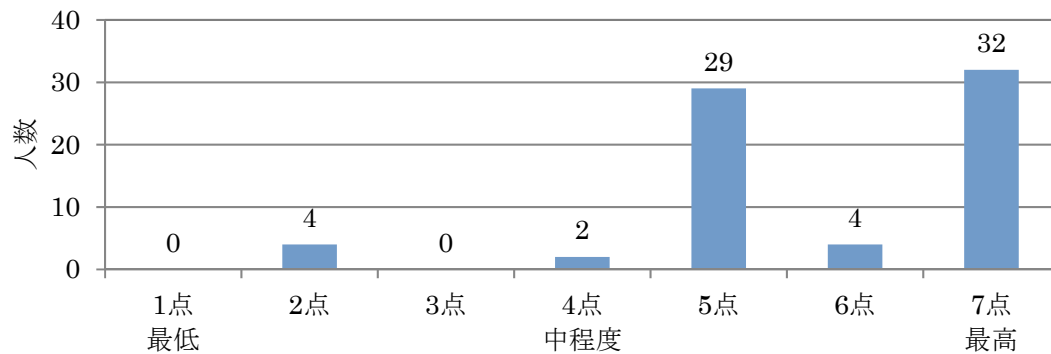
●皆で一つのことを仕上げることができ、いい経験になった。

●国家試験に向けて頑張ろうと改めて思いました。とてもよい機会でした。

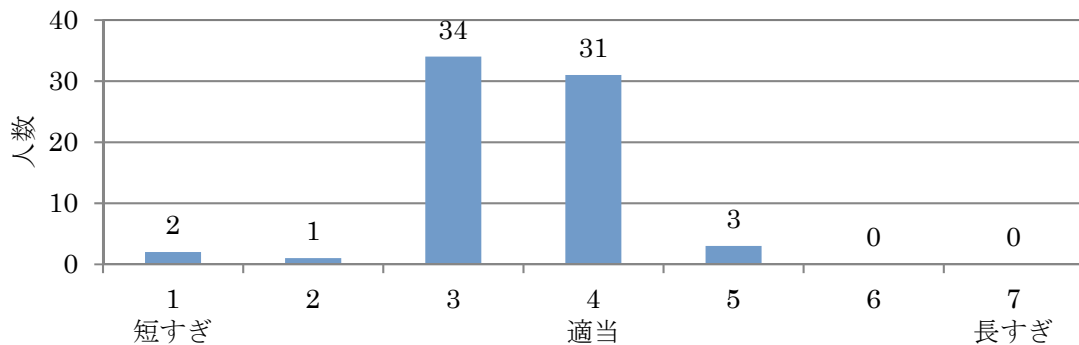
ワークショップの総合評価

1. 今回のワークショップを全体的に評価してください。

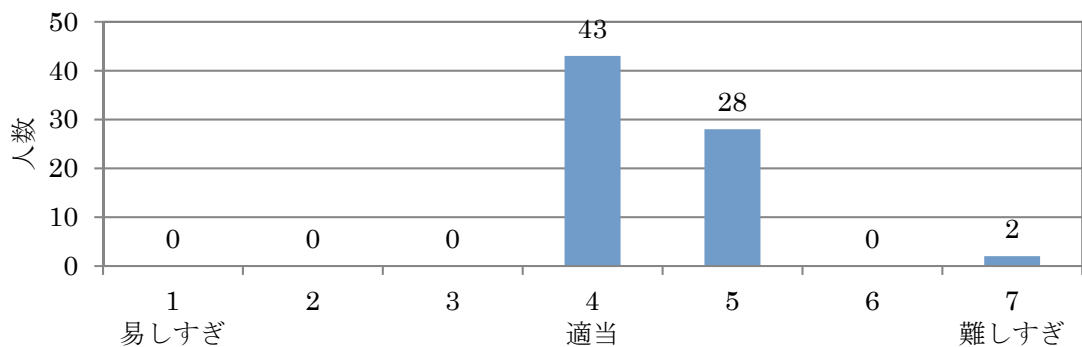
1) 内容の価値について



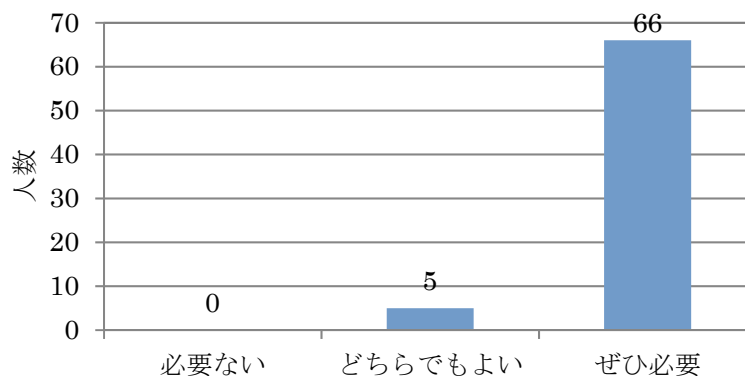
2) 内容に対する時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップを継続することについて



2. 今回のワークショップでよかったと思われることをお書きください。

●学内で行われる SGD では友人関係の中で発言力の強い人・弱い人が明確に分かれてしまい、全体的な議論とならない事もあった。

今回のように、環境の違う初めて会う人達と議論する事で、自分から発言する場合と相手の話に聞き入る場合と様々な役割を担うことができて良かった。

●他の薬学生がどう思っているのか、現状を少しは知ることができたかなと思うこと。

●最終的に自分の行動宣言を考えることができた点です。

グループみんなで薬剤師のプロフェッショナルリズムや社会のニーズを考えてきた 2 日間を経たからこそ、自分の行動宣言も自信をもって決めることができた。

●偏った考え方しか持っていなかったのだと大変よくわかりました。

●全国薬科大生の交流の場をもてたこと。

●小グループ（意見がいいやすい）と大グループ（みんなに伝える）とで討論する機会があったこと。

食事がおいしかったのでやる気がでた（元気がでた）。

●普段の学生生活で、煮詰めきれない部分をじっくり見つめ直す、再考する機会を頂けたことが良かったと思います。学生のうちに参加できて良かったです。

●全国の薬学生と議論を交わせた事。

自身が考えている事に対して「それ重要だね」等の言葉をかけてもらい、同じ様な事を思っている人を多く見つける事が出来た。

●普段顔を合わせる事が無いけど、ざっくり同じ方向を見ている方、若しくは違う視点を持っている方と一挙に会って話せていい刺激を受けました。

●学校内で同学年の意見くらいしか聞くことがなかったので、他大学に人達と意見交換ができとても刺激的だった。自分自身の「薬剤師の使命」に関し、すごく考えられる機会だった。

●2 日間共に作業を行うことで横のつながりが強くなることを知れた。

教育にたずさわるエライ人の話を直接聞けたこと。

●大きなテーマについてよく分からないなりに考え、話す努力が出来たこと。

同じ職業を目指す仲間と職業人として目指す内容を話し合えたこと。

●日本中に友達ができたと。自分が考えたことがなかった世界観を持っている人が多く、新しい知恵が得られたこと。

●1 大学 1 人、様々な背景を持った学生との討論する機会は滅多にありません。また医療を志す仲間でありながら進路も異なる方が多く、協力し価値観が高まりました。

●他の大学の人とも交流ができたこと。みんな発言力があり、また様々な考え方を持っていてとても刺激だった。

●グループ全員が意見を出し合いまとめられたこと。また他のグループともディスカッションすることで、様々な意見に触れることができ、違う角度から物事を考えられるようになったこと。

●オンとオフの切り換えがしっかりしていて、非常に濃い討論の連続でしたが、疲れを感じることなく楽しむことができました。

●自分たちが働くなかで「だれに」「どのような形で」ニーズを求められるのかを考える事ができた。

●議題が普通大学の友人と話すような会話ではなかったので、非常に新鮮だった。自分が日々、本当はこういうことを熱く語ることができる相手や環境がほしかったんだなと感じた。そう思う人がいる限りはこのようなWSを続けてほしいと思いました。

●他の大学の人とふれあい、さまざまな意見をきくことができとてもいい刺激になった。タスク、OB、OGといった立場のヒトの意見をきくことができたのもよかった。今回参加してみて、なりたい薬剤師像を明確にすることができたので、102回の国試に合格できるよう、今からやれることに努めていきたい。

●1つのグループで2日間話し合っ意見をもとめることで、他のグループの考えも受入れ、考えやすかった。

●具体的に自分達が社会で「薬剤師として何を求められているのか」について考える事ができました。そして自分なりの答えを考えぬく中で見出すことができ、大変勉強になりました。

●各大学1人ということ（初めからグループ等でかたまることがないから）SGDが2日間のほとんどを占めていたこと。

●とてもいい刺激になった。大学だけでなく大学外の別環境の仲間の話、意見を聞けて尊敬すべき所、私にはまだ不足している所がわかった。

●未来の薬剤師について考えるテーマが良かったです。

●普段話したりする人ではない全国の薬学部生と意見交換することができ、本当にさまざまな価値観、意見があることに気がつけた。

良い刺激になったし、これからももっと頑張らなくてはという思いになった。

●未来について考える機会があるのはとてもいい経験になったと思います。私になりたい薬剤師像が果たして将来、求めているニーズに対応できるのか。

また、プロフェッショナル等の今まで考えなかった視点にも目が向けられました。

●答えのないことをその日に知り合った人達と協力して答えを出していくのは、自分になり意見なども聞けて刺激になった。大学間でのつながりができる良いキッカケだと思う。

●この様なワークショップは、6年間今までなかったので良い経験になりました。

●今までは将来社会がどう変化し、薬剤師の役割がどう変わっていくのかということについて真剣に考えたことがなかったので、今回他大学の多くの学生と意見を交換する事ができて良かったと思う。

●多くの人々と交流ができ、非常に自分の考えが深まった。

プロフェッショナルについて考える機会があり、ワークショップ参加前と参加後で自分が目指す薬剤師像に良い変化があった。

●他大学の人との交流とあるテーマで一緒に話し合っ、皆の考えを知れたことは良かった。

●日本全国の大学の薬学生が集まっていることで、これまでの大学生活において全く触れてくることのなかった考えにも触れることができ、またそれに対してのディスカッションを重ねることで視野が広がったと思います。

- 各校1人に限定する事でより深い議論を行うことができた。
 - 全国の他大学の方と話すことができる。
 - 討議方法やテーマの順番がよく、段々と同じグループの人とうちとけていくことができた。
 - とまりこみなので、みんなとずっと一緒にいられたこと。
- 議論のテーマがすごく良かったこと。
- 2日間のセッションで1つのテーマに向かって話すので達成感がすごかったこと。
- 同じ境遇の仲間たちと活発に議論することができ、多様な価値観、想いを知ることができてよかった。グループ分けの方法（3 グループ→3 グループ）がとても適切だったと思う。
 - 他学の薬学生と深く関われたこと。また様々な意見が聞けたこと。プロフェッショナルについて討論できたこと。
 - セッションや講演が次のディスカッションにつながっており、一連の流れが分かりやすかった。
 - 様々な県の国立、私立をまぜたチームだったので、大学の違いや地域の違い、教育の違いを知ることができた。
 - 他の大学の学生と話す機会が得られたこと。
 - 全国にいる熱意のある方々と薬学の将来について語り合うという貴重な機会を頂きましてありがとうございました。
 - 今までぼんやりとしていた自分自身や社会の将来ビジョンについて具体的に深く議論することができ、志を同じくする仲間の意見を多く聞くことができた。
 - 各大学、全国から学生が集い、お互いの意見を交換したことで、大きな刺激になり、モチベーションが上がりました。
 - 発言することに恐れないというワードに感動した。
- 患者ではなく人として接することが重要。
- 多くの大学の人と話す機会は今までではなく、今回のお題についても様々な視点の人達の意見を聞くことができて良かったです。同じような意見でもその人の話をしっかり聞くことで、微妙に考えていることが異なったので、今後もいろんな角度から人の話を聞こうと思いました。
 - 様々な違う価値観に触れ、意見をぶつけあうことで今までなかった考えができたり、自分の考えを深めたりすることができました。また、“今”ではなく“未来”を見つめることによって自分の“今”やるべきことを未来志向型に発見することができたので良かったです。
 - 学内では気の合う友人らといることも多く、視点の異なる意見を聞く機会が少ないですが、視点の違い（特に就職先の異なる班のメンバーだったので）を知り、様々な薬学生、将来の薬剤師がいることがわかったのはとてもいい機会だったと思います。
 - 多くの薬剤師を目指す同志と知り合えたこと。
- 私も薬学6年の一員であることを再認識できたこと。
- それによるミーティング効果を実感できたこと。

●将来についてここまでディスカッションできる機会はなかなかないので、自分の持っている意見に対して、違う視点からの意見や問いかけがもらえたことがとても貴重だなと感じました。

●一番は内容よりも他学校の方との合同で SGD ができたこと。そして普段考えない事をまじめに考える機会が得られたこと。

●薬剤師としての将来を考えるにわたり、今日までは病院 ph.、薬局 ph.などで小さくくりでしか考えていなかったが、ALL 薬剤師としてどうすればいいかを考えることによって、より広い視野で薬剤師の将来について考えることができるようになった。

●他の県、他の大学の学生、社会人の方々と関わることができ、とても貴重な経験ができました。

●様々な大学が 6 年間で学んだこと、吸収したことを持って、このワークショップに参加しているため、今までは見えなかった考えを聞くことができ大変勉強になりました。

●知り合いが全くないことで積極的に他大学の方にコミュニケーションを取りに行くことができたと思う。

●様々な意見が飛びかう討論会とっても楽しかったです。考えの幅が広がりました。

●全国の薬学生が集まり、皆が何を考えているのかを知ることができ、視野を広げることができた。

●自分がこれから社会人になるなかで、自分以外の同期の薬剤師がどのような考えを持っているかを知れたこと。

●様々な形式の WS であきない構成だったと思います。

●違う県の人とも触れあえて、視野が広がった。

●皆と仲良くなれたこと。

●多くの他大学の学生と話すことができる。

OB、OG の方々、先生方から現場の話も聞くことができる。

●同じ薬剤師を志す同期の人たちと意見を交換し、討論することで、自分自身の考えていたことをもう一度みなおすきっかけにもなり、視野も広がったので良かったです。

●班に企業、行政、薬局、ドラッグ、病院とそれぞれが目指す人物像が違う人が集まっていて様々な考え方や、言葉を知れてよかった。

●それぞれの大学ごとに 1 人、ほぼすべての薬学部のある大学から参加しているこのワークショップに参加して、多様な進路、考え方、取り組み方を知ることができ、本当に刺激を受けました。参加して良かったと心から思います。

●各大学 1 人での参加だったので様々な地方のことや考えを共有することができたことがとても良かったです。

またその意見、考え方を自分の中に取り入れて大学にもって帰りたいと思います。

●横のつながりが増えた。

●普段、話す機会のない他大学の人達や先輩方、先生方の話が聞けて、とても良い刺激になった。

また、他大学の人達と仲良くなれて良かったです。

●色々な人と接し、色々な意見を聞いて、もしかもしれないけれど、視野が広がったよう

な気がする。

●自分の意見を言いやすい場でもあったし、楽しんで議論できるような雰囲気をタスクの方々も作ってくださったのでありがたかったです。

みんなの意見を聞いて、自分の考え方を改めたり、発見できたことがとてもよかったです。

3. 今回のワークショップの問題点と思われることをお書きください。

●議論が長引いてしまった面もあるが、やはりもう少し時間がほしかった。

●ここで色々解決策を話し合っても、それによって今やこれから起こる問題を解決できるとは正直思えないこと。与えられる影響が小さすぎる。

●タスクフォースの方々の指摘はありがたいのですが、あまり多いと学生主体の話し合いになりませんので、言いたい気持ちを抑えて見守ってほしいときがありました。

●しかたないことですが、場所が遠いということが問題でした。

●強い主張をもった人の意見が優先されている（しょうがないことかもしれないが）場所が遠い。

●ⅠⅡⅢどうしの意見交換討論が少なかった。

●セッションのお題が抽象的な部分が多く、ワークに入る際、理解や個々の認識の合致に時間をとられてしまったように思います。ワークの時間設定はちょうどよく、1泊2日もよかったのですが、各セッションの討論が短かったと思いました。

●現在における問題点を上げて、解決策を考えるという今を考える時間が欲しかった。

●最初の Ice breaking がⅡチーム全体で行われ、その後に S に分かれて SGD という流れでしたが、私個人としては、固定されたメンバーではなく沢山の方と話せた点については良かったと思いましたが、S のメンバーを意識していなかったため、十分な Ice break となっておらず、ディスカッションに入る際のバリアが少しあったように感じます。

●他のグループと話し合う機会がほとんどなかったこと。参加した全員それぞれの意見を聞き、全員の顔くらいは覚えたら良かったなと思った。

●少し詰め込み過ぎかと思う。

●個人的な反省ですが、SGD で先生や先輩方の意見に影響されすぎたり、マイナスな指摘をポジティブに話し合いに還元できなかった点。

●グループ間での交流が少なすぎると思います。

初日のアイスブレイク内容や1日、2日のグループ変更を行うなど、出来るだけ多くの方との交流する機会を与えて頂くと討論も盛り上がるかも。

●今回に限定したことではないのですが、開催は6年生ではなく、同時期の5年生でも良いと思う。

●2日目で異なる3グループ（例えばⅡのA.B.C）の意見を1つにまとめたことについて方向性が異なるため、それを無理に1つにまとめてそれぞれの班の言いたかったことが反映されたか少し疑問に思いました。

●せっかく全国から学生やタスクの方がいらしていますが、全ての方と腰を据えてお話しすることが難しかったです。2日目からグループをかえるなどしたらまた少しかわった流れを楽しめると思いました。

- 準備の問題について。ペンが出ない。PC の接続不良などは予備を用意する等で対処できると思うので、開催側としてそこは配慮してほしいです。予算が…と言う意見も出たそうですが、そう言う所こそお金をかけるべきだと思うのでご検討ください。
 - パソコンの不具合があった（準備）。ハンドアウトはセッションのタイトル、目的を分かりやすく提示してほしい（講義に熱が入ると原点を見失いそうになるのでいつでも戻れるように）
 - 9 つのグループ（ⅠA～ⅢC）に分けた中で、まったく交流できなかった人が結構いた。Ⅰグループや2次会でのCグループ交流できたけど、ⅡA、ⅡB、ⅢA、ⅢBについて交流できなかったのが残念だった。
 - 薬学部生、薬剤師としての考えにかたによってしまう場合があった様に感じました。
 - 前泊を認めてもらえず、始発での参加で少しきつかった。大学ごとではなく、全体を通して前の日入り準備できたら、また違ったWSになったかもしれない。
 - グループを途中で組み直しても面白いと思いました。
 - もっと時間に余裕がほしかった（討論など）
- 2泊3日で同じことをやっても良いのでは。
- 現場にでていない学生同士では今の状況を把握することが難しく、未来のことを考えることはいい面でもあり、逆に困難なようにも感じました。結果的に先生の誘導もあり、私たちが見つめあわなければならない課題について話し合えたので良かったです。
 - 発表する人が固定化してしまい、せっかく多くの人に来てるので、たくさんの意見をききたかったんで、日数をまだ増やしてもいいと思う。
 - 他班の意見を全てまとめ発表するという課題は時間的にも内容的にも難しい。休憩時間が足りない。
 - 学生間での交流で、共通の友人の話などは控えるべきだと感じた。ほとんどの人が初対面であるので話に参加しづらかった。
 - 卒業生の人に今のニーズや少し先に来るだろうニーズの話を聞いたら、もっと良かったのかと思いました。
 - テーマが深い中で、時間に追われることで全員が納得しきれていないまま、発表に突入してしまったのではないと思われるセッションもあったので、時間配分に関しては改良の余地があるかもしれません。
 - 議論する時間が短すぎた。テーマの数を減らしても良いので、より長く1つのテーマで議論したかった。
 - 6年間のフィードバック（主に実務実習について）をしたかった。将来のことを考える事が多かった。6年間の薬学教育についての振り返りの話し合いがほしかった。
 - 一つ一つのセッションの時間が長すぎるとは思わないけれど、途中のブレイクの時間がもう少し長く欲しかった。（今回のようなWSならば3日間になったとしてもぜひ参加したい）
 - もっと話したかった、議論したかったです。班の人がすごくいいメンバーだったので、議論がすごかったです。
 - グループの分け方は適切だったと思うが、もう少し1グループ人数の少ないタスクがあ

ってもよかったかもしれないと思った。

●グループが変わらず、他のⅠやⅡの人とあまり関われなかったのが残念。

グループで話し合っている時に先生が口を出してきたことは少し嫌でした。(自分たちだけで考えたかった)

●事前に情報がほしい部分があった。題目から外れることで時間のロスが多かった。

●夜の飲み会のため、大事な2日目の方がつらそうな人がいたのが、少しもったいないと感じた。

●タスクの人がほぼ決めてしまう、意見を出しすぎるといえるのはどうかと思った。違う視点の意見も良いかもしれないが、進行をスムーズにすすめるまででとどめてほしい。

●私個人としては、薬学教育を受けたからといって、必ずしもそれを社会で直接的に生かす必要はないと思っています。私個人としては、「薬剤師」としてという前提が全ての議題に入っていて討論しにくかったです。

●全体的な内容について適切な時間が設けられていましたが、もう少し個々のセッション時間を多く取って欲しかった。

●もっと他の班の人とも交流できればよかったと思います。

●どのお題も面白かったのですが、話していけばいくほど考える時間も増えてしまい時間が足りなかったです。

●内容が濃くとてもよかったのですが、時間が短く感じました。また、もっと積極的に全員が参加できる討論になったらいいなと思いました。(自分の反省でもあります)

●どうしてもチームの違う人たちと話す機会がもてなかった。(逆に言えばチーム内の団結が強かったのかもしれませんが)

●最後自由討論の時間では、もっと時間をとっていいと思います。発表ごとにフィールドバックの時間を設けた方がいいと思います。

●ポスター作成のテーブルが適切ではなかった。(大きすぎて書きづらかった)

●問題として考えられることは、せっかく大勢の方がきているのに、大きなグループのⅠ、Ⅱ、Ⅲの内容のみでしか議論をかわすことができなかったのもより、たくさんの人とディスカッションが行える環境にあってほしかった。

●今回大学の先生から推薦をいただき、参加させていただくことができました。ですが私の他にもこのようなWSに参加したい学生がいるかと思います。ぜひ参加の窓口や範囲を広くしていただきたいです。

●Ⅱ班なのでⅡ班の方々とは話す機会が多く楽しかったのですが、Ⅰ班やⅢ班の方々とあまり話す機会がなかったのも少し寂しかったです。

●2日間の個人での発表(行動宣言)の時間が短かった気がする。

●課題が難しいものがあつたが良い経験ができた。けれどやはり時間に追われる部分もあったので、もう少しだけ時間があればより良いかなと感じました。

●もう少し討論する時間がほしかった。

●総合討議はもう少し形式を変えて、発言者を増やせばよかったと感じました。

●最終討論の時間はもっと長くてもいいと思います。皆さんの本音をもっと聞いてみたかったです。

- 開催地が東京と大阪に限られているところ。
色々な県をまわると公平かな？と思いました。
- 各セッションの時間が短い
- ディスカッションの時間がもっとあればいいなと思った。
他のⅠ、Ⅱ、Ⅲグループの意見をもっと聞きたいと思った。
- 1日目夜が長い→2日目朝が眠い（ディスカッションしづらい）
- 1つ1つの議論の時間が短かったです。十分議論ができたと言い切れない部分、時間がないからと声の大きい主張がとりあげられた部分、まとめるためにタスクフォースの先生主体となってしまう学生のためのディスカッションとならなかった部分がありました。セッション数をへらすなどことんまで話し合う場があっても良かったと思います。
- スケジュールが少し過密かなと感じました。しかし実際に討論していると時間が足りないことが多々あったので、これ以上のスケジュール調整はむずかしいのかなと感じました。
- 未来のことにこだわりすぎた気がした。
- スケジュールがぎっしり詰まっていたので、もう少し間に短い休憩があつたら良かったと思いました。
- グループ内では、一緒にごはんを食べたり交流する時間は長かったけれど、ほかのグループとはなかなか話をするには時間の余裕がなかった。
- スケジュールがとてもタイトだったので、もっと議論の時間がほしかったなと思いました。

4. その他の意見（ご自由に）

- 大学教授より、必ず人生に役に立つとすすめられて参加させて頂いた。
この2日間は新しい出会いや意見がたくさんで刺激が多く、これからの自分の考えにより役立つ経験ができた。
- よく「このように良くするためにどうしたらいいか」ということを考える時、「薬剤師がこんな風に気持ちを引きしめてがんばる」「患者さんによりそう」というような意見を聞くが、全体の制度、体制、仕組みを考えるというより、個人の努力でおこなおうとする意見が多いように感じた。「ここでの仕組みを話しても変えられるものじゃないか、個人について言おう」と思っているというのもあるとは思いますが、個人のモチベーション・体力にも差や限界がある以上、精神論を言ってもあまり解決にならないような気がする。それより「どのような行動を具体的にすれば、患者さんに寄り添っていると認識されるのか」といった、具体的にわかりやすく皆が実行できることを話し合った方がいいような気がする。
- 資料は初めに配っていただいた方がメモを書き込みやすいのではないかと考えていました。
- 今回ワークショップに参加させていただき、将来求められる薬剤師像を考えるいいきっかけになりました。個人としてそして薬剤師としての目線で考えを主張し討論しあう重要性が分かりました。
- 学習項目として（大学でもWSでもどちらでも）患者様の思いを聞いたりできるようなものがあるといいかな、そういう思いもあるんだという気づきになる。

- 参加前に想像していたよりも非常に充実し、意義のある2日間になったと思います。参加して良かったです。
- 今回、自分の意見を言えて、周りの意見を聞けるという機会を頂けた事、大変嬉し思っております。
- しゃべり過ぎたと後悔している。
- 貴重な機会をありがとうございました。医療、薬学に新風をふきこめる人材になれよう努力します。
- 非常にいい勉強になりました。ありがとうございました。
- ディスカッションする内容はとてもむずかしかったと思いますが、先のことを考えるよい機会となりました。また自分の意見をもちつつ、人の意見にも耳を傾けることの大切さを再確認しました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。
- 全国にいる同期生とワークショップを行う中で、様々な考えを聞くことができ、とても刺激を受けた。学生生活あと8カ月であるが、短い期間の中でも自主的に行いたいことを見つけることができた。
- 自分の普段興味のあるジャンルと違う話をする事ができて逆によかった。
- このワークショップ参加して良かったです。
- 他の大学の先生や先輩、同期生と意見交換ができたことが、自分自身の視野、価値観を広げる上でとても刺激があり、有意義な時間を過ごせることができました。
- 本当に有意義な2日間で、他大学の学生と知り合いになれたことはおおきな収穫だった。ありがとうございました。
- 私はIAだったので、Iグループの人とはたくさんかかわれたけど、II、IIIの人とももう少しお話がしてみたかった。
- 進路の関係から、テーマに自分の経験や思想がマッチしないことが多かったですが、他の大学の学生との触れ合う機会に満足しています。各討論の後にもっとタスクフォースの方からコメント、修正があっても良いと感じました。
- 意見交換のみならず、他大学・地域の方々と親しくなることができ、有意義なWSとなりました。
- 1泊2日で他大学の同期と情報共有する機会はなかなかないため、非常に有意義な時間を過ごすことができました。
- 1大学1人しかこの体験を出来ないのは、少し勿体ないのかなと思いました。
- 臨床薬剤師志望の学生だけではなく、製薬企業であったり行政であったりと幅広い視点に立つ学生が集められたことでディスカッションにも広がりや深みが出たと思いました。今回得られたことを忘れずに今後の自分のフィールドで戦っていきたいと思います。
- 病院薬局・実務実習と充実していたとはいえなかったのも、そのことについて議論したかった。病院も薬局も1ヶ所しか知らないの、3ヶ所ほどローテーションする実習にしてもらいたい。実務実習は今後の進路を決める上で重要になるとおもうので、指導薬剤師もそのことを考えてほしい。
- 今回のワークショップに参加できて本当に良かったです。みんなと別れるのがさみしいくらい。同窓会したいです。本当にありがとうございました。

- 全国だけではなく各地方でもこういう WS があればよいと思った。
- 薬学の教育のことももう少し議論したかったです。
- 報告書はその日のうちに書かせてほしい。
- タスクフォースの方や卒業生の方には、様々な場面でお世話いただきました。2 日間ありがとうございました。
- 同期の様々な意見や OB の現場で生の意見を聞くことができて、大変刺激のある 2 日間だった。これからもこのような場を継続して設けていただきたい。
- 今回の総合討論で議題となった内容ですが、薬学だけでなく、医看護部など他学をまじえたワークショップがあれば良いと思いました。
- もっと自分の意見を言えばよかった。
- 難しいとは思いますが、10 年後に同じメンバーで集まって同じことができれば、過去と未来を見つめるいい機会になると思います。
- 他のグループとの意見交換（もう少し小さな規模で）する機会があればと思いました。
- ディスカッションでのタスクフォースや卒業生の方の就道修正が的確でした。
- 時間がなくて質問できませんでしたが、薬学部も卒後研修制度が必要なのではないかという意見を私は持っていて、このことについて話してみたかったです。
- せっかくなので卒業された先輩方のお話をもっと聞きたかったです。全国の薬学生とディスカッションできて楽しかったです。ありがとうございました。
- この様な機会をいただきありがとうございました。
- 2 日間大変お世話になりました。ありがとうございました。
- とても楽しかったです。2 日間ありがとうございました。
- 他大学の人の意見を聞くことで、薬剤師としてのプライドやプロフェッショナルリズムを考えるいい機会になった。コミュニケーション能力を高めることができて良かった。
- とても有意義な 2 日間でした。大学生活に戻ってもこの経験を活かしていきたいです。
- とても楽しかったです、いい思い出になりました。
- 討論の意見交換では活発な話し合いで、違った価値観であったりと、今後、自分自身が薬剤師となって活やくするにあたってどういう薬剤師になりたいかということを改めて考えることができました。
- 今回で学生としての参加は終わりですが、機会があればぜひまた今度は違う立場で参加したいです。
- 有意義な時間でした。
- 2 日間とても楽しく過ごせました。
- 全国から同じ薬学部 6 年生が集まり、仲良く話を出来て楽しかった。

卒業生印象記

第2回参加経験者 氏名 小嶋 崇弘

第6回WSはタスクフォース見習いとして参加した。学生のサポートだけでなく、薬剤師として求められる10の基本的な資質のアンケートをまとめ、皆の前で発表する機会を頂けた事は自分にとって良い場と機会であった。アンケートの集計や学生の議論を見ていて、当たり前のようにバイタルサイン、在宅、機械化という単語が学生の口から出てくるのは6年生教育が進んでいる証明であり、自分たちの時より着実にレベルは上がっていると感じた。そして6年制教育を卒業し、今後の薬学を支える仲間としてとても頼もしく感じた。学生の時から合わせると今回で5回目のWS参加である。初めは何気ない参加であったが、今後の薬学の未来について考えるだけでなく、自分の日々の業務を見直す場、そして自分自身を振り返る場、学生から先生方まで志しを共にする仲間と交流できるこの場は是非続けていきたいと感じると共に得たものを自分たちからも発信していかなければいけないと痛感させられる良い機会であった。タスクフォース見習いとして関わることで本当に多くの方々の支えがあって運営されていることを改めて実感でき、貴重な機会を設けて頂きました日本薬学会を始め多くの先生方、そして参加した皆様に感謝申し上げます。

第2回参加経験者 氏名 吉川 望美

この度は第6回全国学生WSにオブザーバーとして参加する機会をいただき、関係の方々に心より御礼申し上げます。今回のWSでは「これからの薬剤師に求められる社会のニーズ」について話し合っていました。その中で調剤ロボットやAIというキーワードが出てきており、学生の中から当たり前のようにそれらに関連する意見が出てくることに驚きました。社会のニーズについては、一般社会人として大切なこと、また医療人として倫理的・道徳的に大切なことを中心に意見が出ていたように思います。つまり薬剤師側が社会に対して「こうありたい」と考えている意見が多い印象を受けました。社会が薬剤師に求めている役割とは何か、薬剤師ではない人の意見を聞く機会を作るのは難しいかもしれませんが、生の声を聞き考える機会があるとより良いかもしれません。また、薬剤師は医療の中で意見を言えない、職能を広げないといけない等の意見が多くあり、医療現場で働く人間としては、後輩にそのような印象を与えていることに申し訳ない気持ちになりました。薬剤師の職能と社会のニーズについて、私自身が考えさせられる大変良い機会となりました。

第3回参加経験者 氏名 井元 優美

卒業生としてこのワークショップに参加させて頂いてから今回で3回目となりました。参加させて頂く毎に卒業生の立ち位置も変化していき、卒業生としてワークショップにどのように関わる事ができるか考えさせて頂く良い機会だと感じています。今回オブザーバーとして本ワークショップに参加させて頂きましたが、主に以下の感想、課題を見出すことが出来ました。まず感想としては学生として参加した時と比べ、薬剤師としての知識、経験とともに少しは成長しているのではないかと感じたことでした。課題としては、ディスカッションの際にグループ内で限られた時間内により良い結論を出す事が出来るように学生にアシストする力をほぼ持ち備えていないということを思い知らされたということでした。今後本ワークショップを通して薬剤師としてどう行動していくか、後輩にどのようにそれを伝

えていくことができるかを考えていきたいと思います。

最後になりましたが、お世話になりました先生方に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

第3回参加経験者 氏名 柏原 道志

今回はOBとして2回目の参加でしたが、自分が学生として参加した頃や前回OBとして参加した時と比べて、薬学生が考える薬剤師像の変化に驚かされた瞬間が多かったと思います。薬剤師としてのプロフェッショナリズムを考える中では、昨年ブルーレターが出されたラモトリギンや、薬価や適応外使用で社会問題となっているニボルマブなど、臨床で「今」話題となっている薬物が自然に話し合いの中で出ていました。この数年のWSでは、薬剤師の専門性やチーム医療などの話題が多く挙がっていた印象がありますが、今回のWSでは社会問題に視点を持った薬学生が多かったと感じました。6年制薬剤師の進路も多様化する中、薬剤師のプロフェッショナリズムの根底に、このような広い視点をもった薬剤師が社会に出てきて一緒に仕事ができると思うと、とても楽しい気持ちでいっぱいになります。今回のWSも、本当に多くの気付きや刺激を頂けた素敵な時間を過ごせました。

最後になりますが、今回もこのような素晴らしい場を提供してくださった全国学生ワークショップ実行委員会の先生方を始め、学生の皆さん、OB・OGの皆さんに感謝申し上げます。本当に有難うございました。

第3回参加経験者 氏名 志田 美春

この度を含めた4度の参加経験を踏まえまして、第6回WSについて振り返ります。6期生の皆さんへのメッセージとなれば幸いです。

議題の中で特に印象的だったのは薬剤師の仕事の機械化です。総合討論では、機械化不可能な仕事として服薬指導が挙げられていましたが、果たして本当に機械化不可能なのでしょうか？そもそも機械化は人の経験から得られたデータベースを元にプログラムを構築する(仕事をパターン化する)ことから始まります。ですから、データベース化できるものは、ほとんど機械化できます。つまり、服薬指導のような複雑な事柄の場合、必要データ量が多くなるため、機械化は困難ですが、絶対に不可能ではありません。だからこそ、私達薬剤師は、機械化不可能な、人にしかできない服薬指導ができるように、日々成長し続ける必要があるのではないのでしょうか。6期生の皆さんが、薬剤師免許の取得がゴールではなく、スタートであることを念頭におき、今後も精進されることを願います。

末筆ではございますが、開催にあたり尽力いただきました関係者の皆様に厚くお礼申しあげますとともに、薬学の発展を心よりお祈りいたします。

第3回参加経験者 氏名 白石 彩奈

今回のワークショップには、オブザーバーとして参加させていただきました。社会人になってから、現役の6年生の討論を聴くのは2回目でしたが、社会人経験を積むほど、討論で挙がってくる意見がより新鮮なものに感じました。また、予備校講師という職業上、臨床の薬剤師として10年後、20年後の社会のニーズを考えるのは、とても難しく感じましたが、参加者の

話を聞くうちに、自分なりの答えを持つこともでき、貴重な体験ができました。ただ、オブザーバーという立場は理解しているものの、もう少し現役生と討論する機会が欲しかったとも感じました。

また、このワークショップは、自身が在学中に参加したときの同期生と交流できる大切な機会でもあります。今回も同期生や先輩方と意見交換をすることで、普段は聞く機会の少ない臨床の話聞くことができました。ワークショップは参加するたびに、新しい発見があり、また、同期生や後輩に負けないよう頑張らねばと自身を奮い立たせる良い機会なので、今後も参加していきたいと思います。

第3回参加経験者 氏名 東本 祐佳

今回私は学生参加者の論議を見学できるオブザーバーとしてWSに参加させていただきました。担当のIB班の論議を2日間通して見学させていただき、話が盛り上がっているときもあれば行き詰っているときもあり、それぞれのメンバーがそれぞれの視点、伝え方、切り口で軌道修正や原点回帰を促し、プロダクトの完成に尽力しているところに立ち会えて、大変勉強になったと感じています。

テーマが「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考える」だったことで、調剤の機械化や在宅医療の充実など、想定される将来的なニーズをどう満たすか、学生の方々が自由な発想を持って寸劇で表現しているのを見て、こういう場から画期的なアイデアが生まれるのかもしれないと感じました。

今回のWSでもまた、各地で働いているWSの同期と再会することができました。職種はばらばらですが、同じ薬剤師として仕事をしている仲間のちょっとした雑談や近況報告の中からも、自分の仕事に何か生かせるものを持って帰ろうとする姿勢に気持ちを新たにさせられました。

第3回参加経験者 氏名 堀之内 渉

今回初めて卒業生として、そしてタスクフォース補助として参加した。タスクフォースの仕事の難しさとの会への関わり方について考えさせられた3日間だった。

タスクフォースの仕事として、学生を求める姿に誘導する方法が非常に難しいと感じた。SGDにてテーマに沿って話をしている時、運営側が望んでいるような方向性と学生が進んでいる方向性を、一言二言の助言で擦り合わせる事がタスクフォースの大事な仕事だと理解している。しかし言うは易しで、どういう助言をすればうまくいくのかさっぱりわからなかった。その辺を先生方はうまく表現しており、今回学べたところであった。

しかし「補助」というのが当日だけであり、特に運営の一部に携わる時間や企画について意見を言う機会がなかったことが残念だった。企画の内容を知ったのは当日1週間ほど前であり関わり方を考える時間など全くなかった。この程度であれば事前資料を読み込んでくるように伝えて当日早めに集合でよかったのではないかなと思う。

第4回参加経験者 氏名 北川 奈美

私は、タスクフォース見習いとして日本薬学会ワークショップに参加させて頂きました。私達4期生は、6年生薬学教育の変動を感じつつある中で教育を受けてきました。しかし今回参加した学生達には、既に6年生薬学教育が受け入れられ、医療の最新技術を取り入れた将来の絵が描かれている様に感じました。私自身が6年制教育に変わり、臨床教育の充実化が図られたことの恩恵を知ることが出来たのは現場で働いてからであったため、今の学生の姿に大変驚きました。

私は、現場に出てまだ経験は浅いですが、学生では気づきにくい医療経済、教育等に目を向けられるようになりました。学生に助言したい気持ちを抑えながら、1日目は学生の自由で豊かな意見の引き出しの手助けに努めました。

その後、懇親会を経て2日目の「薬剤師として求められるプロフェッショナリズム」に対する行動宣言で、学生の質疑応答に答え、休憩時間終了間際になっても私に質問・意見を投げかけてくれたことがとても嬉しかったです。そして、今の薬学教育を受ける学生の熱意が感じられる素晴らしい瞬間に立ち会えたことに、とても嬉しく思いました。

本ワークショップの参加を通して、教育に携わることができ、また多職種の方とお話する中で新たな気づきを得て、今後の薬学教育の発展に尽力賜れている皆さまとのつながりを築くことができました。薬局薬剤師として働く私は、今後も現場と教育の橋渡しができるよう、精進していきたいと思います。このような機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

第4回参加経験者 氏名 北野 あすか

今回はオブザーバーとして参加させていただき、社会人になってから改めて薬学・薬剤師あるいはワークショップ自体について考える機会を得ました。未来という大きなテーマの中で、機械化では成し得ない薬剤師の業務という視点を深めるグループが多かった印象です。グループワークの中で多種多様な視点にもまれつつ、自身の意見を主張できた人もいれば、何か違うという想いをもちながら成り行きを見守る人もいた様子でしたが、大きな流れがある中で真剣に自身の想いをより深く見つめ、確かめておられたことと思います。

私自身は、オブザーバーのため口出しは基本できず、傍で見ていただけということにはじめは不満をもっていました。目の前で学生の皆さんが自ら気づき、切り開いていくプロセスを邪魔せずに本当に良かったと思うようになりました。

現在、私自身が目の前の業務をこなす中で忘れそうになることもあります。薬学を学んだ者として何をすべきかという視点を習慣づけることが非常に大切だと痛感しています。このワークショップでの経験は、自分のあるべき姿を考えていく道標になるものであり、これからは是非多くの人に盛り上げていてもらいたいものです。

第4回参加経験者 氏名 河本 純平

「2年前にWSに学生として参加した時と、【薬剤師】として、また【社会人】として過ごした自分と、あの時の自分はなにか変わったのだろうか。」

第6回のWSの通知が届いた時、私はそのことについて考えました。結論として、変わっていません。

学生の時に考えていた熱い気持ちは失っていないつもりでしたが、現実を知ることでは良くも悪くも成長しました。学生時はたくさん出てきた自由な発想が社会人になってからはあまり出てこなくなっていました。ただ、社会に触れることで学生時には想像もできなかった取り組みや繋がりができました。

全国から集まる学生にも私のこういった変化をしってもらいたい。その思いから今回オブザーバーとして参加させていただきました。

残念ながら話をする機会が少なく、自分の 100%の気持ちを吐き出すことはできませんでしたが、学生からたくさんの熱い思いに触れることができ、再び熱い気持ちを持って働くことができそうです。

この度は WS に参加させていただき、ありがとうございました。

第4回参加経験者 氏名 津倉 秀幸

今回はタスクフォース見習いとして参加させていただきました。印象的だったのはタスクフォースを成立させる事の難しさと楽しさです。ディスカッションの熱を下げないように、方向性を狭めないようにアドバイスするのは難しかったです。自分が思いもしないディスカッションの着地を見た時は、「これが見守る楽しさか！」と興奮してしまいました。見守る事はとても難しかったです。想像以上に楽しかったです。

私が継続して WS に参加している理由として、自分が学生として WS に参加した事が自分の人生においてとても重要な変化を与えてくれたからです。熱い胸の内を話しても正面から向き合ってくれる仲間が出来た事です。これが WS の醍醐味だと思います。それが今年も行われた事が何よりも素晴らしいと感じました。

最後に、私たち卒業生に大変貴重な機会を与えてくださった日本薬学会の皆様と先生方、改めて出会いの重要性を教えてくださいました第六回WS参加者、WS卒業生の皆様にこの場を借りて感謝を送らせていただきます。本当にありがとうございました。またどこかで会えると信じています。

第4回参加経験者 氏名 濱崎 久司

第6回となったワークショップに参加してまず感じたことは、自分たちの時と変わっていないくて良かった、ということです。2年前、薬学生として参加した第4回ワークショップでの経験や、そのとき得た仲間たちは、薬剤師となった今でも自分の中で非常に大きなモノとして存在しています。かつて自分たちが熱く議論を交わし、素晴らしい仲間と出会うことができた場が、今も変わらず存在していることをとても嬉しく思いました。そして、このような場を絶やすことなく、むしろ増やしていくことがこれからの私たちの使命だと感じました。

今回はオブザーバーとして参加いたしました。大学を卒業して以来、薬学生の真剣な議論を聴く機会が減ってしまっていたため、今回の SGD をとても楽しく聴くことができました。薬剤師業務の実際を知り、発想が凝り固まってしまう自分とは違い、薬学生の柔軟な発想には驚かされることばかりでした。かつての自分の柔軟さを思い出し、現状に捕らわれない型破りな薬剤師となれるように、これからも頑張りたいと思います。今回は薬学生とオブザーバーという立場でしたが、私もまだまだ未熟な2年目の薬剤師であるため、将来はワークショップ

プ参加者の皆で協働できることを願っています。

第4回参加経験者 氏名 増淵 龍一郎

この第6回の学生ワークショップにオブザーバーとして参加をして、見守る事の難しさを痛感することができた。さらに、人が成長する瞬間を何度も議論の中で見るすることができた。学生が議論を重ねる中で、タスクフォースの先生方に目を向けた時に見守る事で成長を促すという場面があった。自分の発言の影響を考えながら、適切な言葉を然るべきタイミングで発信しなければならない。新たな芽の成長のために早すぎても遅すぎてもいけない。学生がタスクフォースや卒業生から受ける影響は言葉だけではなく、議論を聞いている表情や姿勢、立ち位置も重要となると感じた。

また、今回はオブザーバーという役割での参加は、学生の議論の様子をしっかりと見て回る事ができた事で有意義なものとなった。その分、介入したくなる所も多く、もどかしく感じてしまう事もあった。まさに見守りによる育成は忍耐が重要である。

未来を支える薬剤師として、我々卒業生はこのワークショップを引き継いで行き、薬学教育の可能性を更に大きくしていく事で社会の求めるニーズに応えていく事はできないだろうか。これを実現するためにも今できる努力は多くあり、今回の会は良い刺激となった。

最後に、多くの意見を交わして頂いた卒業生の皆さん、貴重な時間をくださった日本薬学会の方々とタスクフォースの先生方に深く感謝しています。

第5回参加経験者 氏名 青木 雅史

実行委員の皆様、卒業生として全国学生WSにお招き頂きまして誠にありがとうございました。今回オブザーバーとしてWSに参加し、world caféから始まりKJ法、SGD、行動宣言、総合討論と様々なディスカッションを聞かせて頂きました。改めて学生時代の創造力の豊かさ、情熱の熱さを実感しました。そして、学生の各々が大学で学んできた「薬剤師として求められる10の基本的な資質」を発揮していたWSだったと思います。私自身、薬学教育モデル・コアカリキュラムにこのような項目があるのを初めて知りました。今後は、これらの資質を以てそれぞれのフィールドで活躍されるのを期待し、私も仕事でしっかり発揮できるように自己研鑽を図りたいと思いました。

最後に、私も昨年は参加者として同様のテーマで各大学の学生とディスカッションを行い、2日間で大変濃い時間を過ごしたのを思い出しました。ここで繋いだ同期の横糸は、本当にかげがえのないものであると思います。その横糸を大切に、次は私たちより上の先輩方とも繋がることで大きな面となり、できる幅も広がると思います。是非、これからも何かご一緒できることを楽しみにしております。

第5回参加経験者 氏名 スタッフ 由紀子

本ワークショップでは「社会が私たちに求めているものは何か？～未来を支える薬剤師としてのプロフェッショナルリズムを考える～」という議題で討議した。全国の大学から薬学生が参加しており、それぞれの大学での実務実習及び事前学習を終え、今後何をしていくべきかという考えを交換できた。各自、何が重要と捉えるかという価値観は異なっており、自分の考えの

及ばなかったことにも気付くことができた。また、その考えに至る背景、つまり経験した事柄を共有でき、自身の財産になった。本題である、プロフェッショナルとしてどうあるべきかという考え方を、これまでしたことがなく、改めて社会の中での自身の責務を考えるきっかけとなった。私は将来、薬剤師教育に関わる教員を志望しており、実務だけでなく、現場で生じている多くの問題を少しでも解決できるような研究をしていきたいと考えている。このような自分の目標を再認識するとともに、これからのプロフェッショナルな薬剤師の使命のひとつであると捉え、新しい医療を築いて行こうという決意ができた。

今回、はじめてタスクフォースの立場で参加した。介入しなくとも参加学生が活発に議論を進めていたため、会場のセッティング等の仕事を中心となり、運営の難しさを痛感した。参加学生の議論を見学することにより、意識レベルの高さを感じ取った。自分も負けずに頑張っていこうとおもった。

第5回参加経験者 氏名 田中 彩弥加

日本薬学会第6回全国学生ワークショップに卒業生(オブザーバー)として参加させていただきました。

1年前、学生として参加させていただいた際は漠然と将来の薬剤師について考えました。しかし、今年は10年後、20年後と期間が示されており、自分が参加した時よりも難しいテーマだと感じ、参加学生と一緒に頭を悩ませることもありました。学生さんの討論を聞いて印象的だったのは、自由な発想でその時々場面を仮定して話を進めるという方法が採られていることでした。私自身、社会に出るようになり、学生の時よりも「答えのある道」に進もうとすることが多くなったように思います。各班の討論を見学し、もっと自由な発想を持てば患者様に今以上の医療を提供出来るようにするための第一歩が踏み出せるのではないかと感じました。また、学生さんのみならず、タスクフォースの先生方、先輩方、同期といった多くの方と意見交換が出来たことはとても良い刺激になりました。今回の経験を今後の業務に活かしていこうと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった諸先生方、日本薬学会の関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

また来年、多くの素敵な学生さんと出会えますように。

第5回参加経験者 氏名 寺井 唯

卒業生として日本薬学会全国学生ワークショップに参加させていただきありがとうございました。前回のワークショップに学生として参加してから1年が経ち、薬剤師としてスタートを切ったばかりの私にとって、今回の参加は有意義な時間となりました。

今回のテーマは未来という視点が入っていたこともあって、学生さんの想像力豊かな議論に興味深く聞くことが出来た。現場で働き始めると突拍子ない発想が出てきにくくなっている自分に気が付いた。学生さんたちならではの発想に刺激を受けるとともに、頼もしい後輩たちだと感じた。

またタスクフォースの先生方とのお話を通じて、このWSさらには薬学教育が先生方の熱い思いに支えられていることを感じた。自分の考えの未熟さを痛感し、私自身も様々なことにアン

テナを張って考える・議論する力を身に付けていきたいと思った。6年生の薬学教育を受けた薬剤師として今後もしっかりと頑張っていきたいと思った。

最後になりましたが、このような機会をくださった日本薬学会の皆様、各大学の先生方、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

第5回参加経験者 氏名 名執 翔

私は、第5回全国薬学生ワークショップに参加させていただき、今年は卒業生オブザーバーとして参加させていただきました。

参加して実感したことは、社会人となり数カ月が経ち、薬学生であった自分がこのような機会に参加できたことは素晴らしい経験であったと思いました。理由は、第6回参加の後輩薬学生が熱心にディスカッションを展開しているのを拝見して、私自身も去年は同じように参加していた事を思い出したからです。また第5回に参加されていた諸先生方や先輩方、同期生との再会は、とても趣深くて、このようにまた参加できたことをより嬉しく思いました。

皆さん同じ薬剤師です。職業は異なっても同じ薬剤師ですから、患者様や、国民の皆様の為に貢献していきたいという気持ちは同じはずです。ここで繋がった皆様は、これから同業者としての仲間となります。この繋がりはずっと大切にしていきたいと思います。

私は医療機器製薬企業のMRになりました。単に営業活動して数字を達成するという営業マンではなく、医療従事者の皆様や、患者様への貢献の気持ちを常に忘れず精進して参りたいと思います。

本セミナーに参加させていただき、誠にありがとうございました。

卒業生 アンケート結果

ワークショップ総合評価（卒業生）

1. 1日目、2日目それぞれで評価してください。

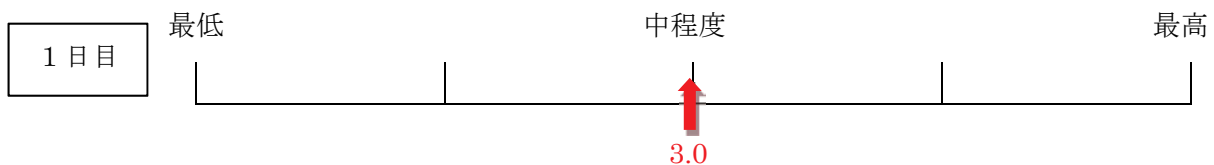
1) 流れにスムーズに入り込めましたか？



2) 内容はあなたのニーズにマッチしましたか？

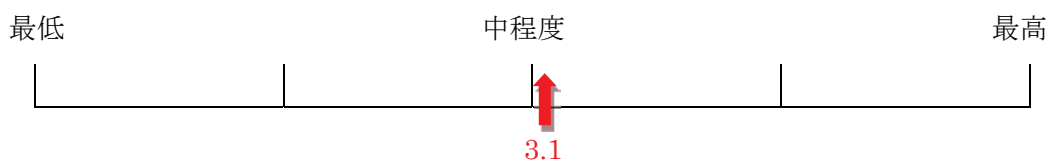


3) どの程度関わることができましたか？

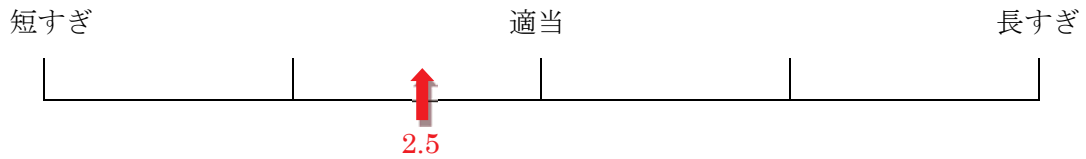


2. 今回のワークショップへの関わり方について2日間を通して評価してください。

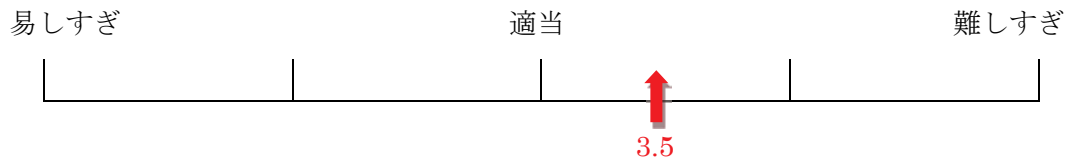
1) 内容への関わり方について



2) 内容に関わる時間について



3) 内容の難易度について



4) このようなワークショップへの関わり方を継続することについて (22 名中)

必要ない (4%) どちらでもよい (14%) ぜひ必要 (82%)

2. 今回のワークショップに関わって良かったと思われることをお書きください。

- 現役の学生がどんなことを考えているのか(その背景として、どんな教育を受けてきたのか)が理解できました。若い人たちの夢やアイデア、熱意に触れることは、初心を思い出す良い機会になります。一方で、薬学教育は大学のみではなく、医療現場でも行われるようになった今、私自身が学生や後進に対して何ができるか考えさせられ、課題を見つけることができました。
- 現役の薬学6年生が思っていること、不安なことを知ることができ、自分が学生の頃との変化を感じることができたこと。
- 社会人になってはなかなか感じるできない学生の素直な意見を聞く機会が得られたこと。
- 毎年他分野の同期生に会うことで刺激になる。現役生の話が生で聴ける。
- 学生の方の現在の目標に関する意見が聞けたこと、卒業生と再会できたこと、タスクフォースの先生の視点や議論を客観的に観察する機会が持てたこと。
- 相手の話をしっかり受け止めてフィードバックする学生が多く、協調性の高さが伺えたこと。
- 第4回参加時と違う視点で様々な意見をゆっくり聞けたこと。
- 同期生や先輩方、後輩の皆さんと話ができて意見交換できたこと。
- 現在の6年生の考え方を直接聞くことが出来た。
- 卒業生Aにて見学という形で関わったが、見守り役としての姿勢についてとても勉強になりました。学生のディスカッションを円滑にするために自身での目標、行動をいくつか考えてきたが、流れを止めず学生の芽吹きを期待する姿勢をタスクフォースの先生を通して教えてもらうことができ、大変よい機会になりました。
- 私たちの下の世代と交流できたこと、タスクフォース、OB・OGを含めて各分野(病院、薬局など)の現状を知れたこと。
- 「ニーズ」について考えることができた。

- 学生目線、薬剤師目線、タスクフォース目線それぞれの考え、意見を聞くことができた、自分自身の向上心のレベルアップにつながった、先輩方の話を聞くことができた。
- 学生・他のタスクの方々意見の聞いたこと、グループディスカッションを客観的に見て考えられたこと。
- 今の薬学生がどのような学習をしてきたのかが分かり社会人となった今大変良い刺激となった。
- 現時点ではタスクとしての実力は不足しているが、将来的にはタスクとして呼んでいただきたい。
- 元気学生が現在どのように薬剤師を取り巻く環境を認識しているかよくわかった。またOB OG や、先生方と人脈を作れたこと。
- 6年制教育の開始から10年が経過した現時点での学生さんの考え方を知ることができ興味深かった。
- 多職種で働いているメンバーとの交流、学生さんの新しい発想、そして先生方との交流は今後の自分の視野を広げさせるビジョン拡大につながる良い機会であった。
- タスクフォースの業務や、WSの運営方法に対する理解が深まった
- 先生方の関わり方の一端を感じることができた。
- 他病院、他医療機関等、先生方とお話できたこと。
- 学生とお話しできる時間を明確に示していただき、話す機会を与えてくださったこと。
- 教育関係者、多職種の方とお会いし、とても刺激を受けました。
- 卒業生 B で関わらせていただいたので、タスクフォースのスケジュールや打ち合わせ等、ワークショップを成功させるためのノウハウを見て学べたこと。
- 薬剤師のあり方という観点で、6年次生や卒業生が各自大切だと思うことを知れた。

3. 今回のワークショップの関わり方で問題と思われることをお書きください。

- 特に大きな問題はないです。今後も、このWSはテーマや形を変えながらも、継続していただけたら嬉しいです。準備してくださった先生方、本当にありがとうございました。
 - テーマ設定が広い。
 - 関わり方とは直接的関係ないかもしれませんがワークショップの一つ一つで「聴く姿勢」を大切にできたと思います。
 - 学生もOB・OG、タスクの先生方も含め、一生懸命話をしている人や考えている人に対して疑問思う姿を見たので（寝ている人や関係ない話しをしている人、携帯をいじっている人など）
 - オブザーバーとしての参加だったので仕方ないかもしれないが、討論にほとんど加われなかった。最後の最後だけ加わっても、現役生は結論を出しきっており、入るスキがなかった。オブザーバー枠をやるなら討論に関する意見を伝えられる所を作るべき。
 - 現時点での卒業生として学生ワークショップに実のある貢献をするには、個人的にまだまだ視野が狭いなと感じました。
 - 話題の範囲設定が広がったため、深い討論に至るまでに時間がかかっていた。気になっていたが基本討論に参加できず、学生から意見が出るのをじっと待つことになった。
- 自身で気付く、学生が気付くことに意義はあると思うが時間も少ないので予めもう少し討

論のテーマをしぼり、それをいくつか行うのはどうか？

- オブザーバーは意見をあまり言えず、言いたくなる場面も多々あったがじっと待つことも重要（意見をつみとらないため）と感じた。
- 自分の意見を言うことができた時間がなかった。
- タスクフォース、卒業生 B の方も席を外れていて卒業生 A の方が関わっている場面があったのは少し気になりました
- 卒業生 A として見学のみよりはもう少し参加できるとよかった。
- あまり何もできなかった。
- 卒業生 B で参加したこともあり、学生を見守る時間が長かった。卒業生と OB・OG が接する時間はもっとあっても良い。
- 卒業生 B としてどのように学生と関わるべきか よくわからなかった。学生の 1 日目のアンケートにも同様のコメントがあったので、最初にどのような立ち位置なのかを OB OG 学生にアナウンスしてもらえればと思う。
- 実際に 6 年制教育を受けた者としての視点を活かせる機会が少なく残念だった。
- 仕事との関係も含めて卒業生 B はしょうがないが、卒業生 A は途中参加でも良いのではないかと感じる。資料等の発表に関わらせていただいたこと、機会をいただけたことがすごくありがたいとは思いますが、自分のパソコンの準備、資料の見直し(2 回目の WS 報告書)など事前に一報だけはいただきたかった。準備等でタスク補助の部分が少しおろそかになり、学生さんからも今回どうしたんですかなどなど、聞かれることも多かったので、その点は今後より、スケジュールに行けるよう連絡等の部分を見直していきたい。
- 卒業生 A、B の 1 日目の学生への発言、補助について、学生が私たちの存在の理解、活用方法をわかっていないため、逆に混乱を招いたりしていないか懸念が残る。
- 卒業生 A と B で異なるプログラムであることは良いと考えるが、A 側のプログラム内容が曖昧で、途中 B 側と同様になっていた部分があった。A と B の内容は近づけるか、B 側をリーダー格として（または指示側）として、タスクフォース手伝いを行った方が良いと考えます。
- セッション中、卒業生の仕事、課題が少ない。卒業生向けのセッションがあったらいいと思う。

4. その他の意見（ご自由に）。

- WS に参加することで学生に何を持ち帰ってもらいたいのかを明確にするために、もっと工夫できそうな点があったと感じます。例えば、社会のニーズについては ALL 薬剤師という前提では、一般論的になってしまっていたので、セッションを病院・薬局・企業・行政などに分けてそれぞれ薬剤師自身が考えるニーズ（つまりこうありたいと思うこと）と、市民になりきって考えるニーズ（こうあってほしいと思うこと）に分けてディスカッションしたら面白いのでは？と思いました。
- 卒業する前から 10 年後を想像することが難しいと話している人がいた。
- 今の薬学教育を 6 年間受けてきた 6 年生に対してどうだったか、そのフィードバックをしてよりよい教育スタイルを見出す場だったと思っていたが主旨が変わっていったと思った。
- 今回もこのような機会を頂き誠にありがとうございました。

- この2日間での気付きや刺激を糧に、今後の薬剤師業務に還元していきます。
- 卒業生同士でテーマについて討論したい。
- 「10年後」をテーマにするなら、最初に「現状のニーズ」を話してから、「10年後のニーズ」を考えるべき。そこがあやふやなままだったので、現役生からありきたりな意見しか出てこなかったと思う。オブザーバーやタスク補助でなく、卒業生として参加したい。
- テーマをもっと「教育」よりにしてほしい。
- 討論の薬学教育や、薬学の専門知識について、全体討論で話は出たと思うが P、S での討論ではほぼ出なかったのが気になった。
- もっと戦うような討論があっても良かったと思う。
- 1つのテーマを掘り下げてったので薬局の話題が多かったが他の職種の話について（院生、製薬企業、行政 etc.）あまり討論できなかった。
- 発表の仕方や、まとめ方、WS の運営の仕方を少しでも学べたと思います。2日間ありがとうございました。
- 「教育」に関心をもつ学生はいない。第4回の時に見られた教育批判はなかったということとは、現在の学生は教育現場に満足しているのでしょうか。
- 第1回から第6回へと経るごとにテーマが現在から未来へと変わってきていますが参加する学生は毎回違い、初めての WS なので初回から未来のテーマについて討論するのは難しいのではないかと感じた。
- やはり、卒業生としての意見を持つ人も多く、見守り役として見ているところで、発表の場はなくとも卒業生同士で意見を買わせる時間が欲しいと感じていました。情報交換会での時間を使うと覚醒の意見を聞く時間も減ってしまい、卒業生が意見できる場では時間がおしてしまい、話すことができない状況がありました。
- 実習関係の意見交換をしている学生が多くいたように思うのでそういう話す合いの場があってもいいように思う。
- 学生が2日間を通してどう考え方が変わったのか知りたいと思いました。
- 今後も参加出来たらいいな。
- 本アンケートの 1-1),2),3)について0日目の評価はすべて最高。学生のサイエンス心が年々減っているように思う。
- 卒業生 B としてどのように学生と関わるべきか よくわからなかった。学生の1日目のアンケートにも同様のコメントがあったので、最初にどのような立ち位置なのかを OB OG 学生にアナウンスしてもらえればと思う。
- 2期生は比較的今でもしっかり関わってきていたが、より OB OG として今後どう WS に関わっていくかはしっかり考えていかなければならない。先生方も含め、その点は1〜5期生含めて議論したい内容だ。
- テーマに対して疑問に感じます。各方面の先生方の準備に準備を重ね決められたこととは重々承知ではありますが、働いていない人間に10年後の事なんて分かるはずもないと思います。働いていない人間でそのような議論ができるとすれば、事前に現場把握しているほどの知識を持っている場合に限ると考えます。ですからせつかくの二日間なので現状把握のためのセッションを1日目、各班討議を2日目にするというのはいかがでしょうか。
- 先生が WS に介入すぎてしまうのは議論が面白くないから、毎年同じような議論になってしまうから、と理由は様々でしょうが、そう思われるのであれば、プログラムを再考させる

必要があるのではと思います。

- 6 年制教育へのフィードバックとして発足したと理解していますこれを話し合おうとする
と、割と建設的で現実的なものが出来るのではないかと思います。
- タスク、卒業生 A、B 両方がもっと柔軟に対応し、学生と WS を進める時間が増えても良
いのではないかと思います。
- 学生による「理想の講義」というテーマの SGD をやってほしい。
- 教育をテーマとした WS の開催。

「薬剤師として求められる基本的な資質」 に関するアンケート

《「薬剤師として求められる基本的な資質」に関するアンケート調査ご協力をお願い》

質問1 6年間の薬学教育を通じて、以下の1～10に示す「薬剤師としての基本的な資質」が、現時点で身についた(成長した)と思いますか？ 自己評価欄の該当すると思われる数字に○をつけてください。

薬剤師として求められる基本的な資質

豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。6年卒業時に必要とされている資質は以下の通りである。

あなたの自己評価は？

	ほとんど 身につ いてい ない	あまり 身につ いてい ない	部分的 に 身につ いてい る	おおむ ね 身につ いてい る	十分 身につ いてい る
1. 薬剤師としての心構え 医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感及び倫理観を有する。	1	2	3	4	5
2. 患者・生活者本位の視点 患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	1	2	3	4	5
3. コミュニケーション能力 患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。	1	2	3	4	5
4. チーム医療への参画 医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。	1	2	3	4	5
5. 基礎的な科学力 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。	1	2	3	4	5
6. 薬物療法における実践的能力 薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。	1	2	3	4	5
7. 地域の保健・医療における実践的能力 地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	1	2	3	4	5
8. 研究能力 薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。	1	2	3	4	5
9. 自己研鑽 薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5
10. 教育能力 次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。	1	2	3	4	5

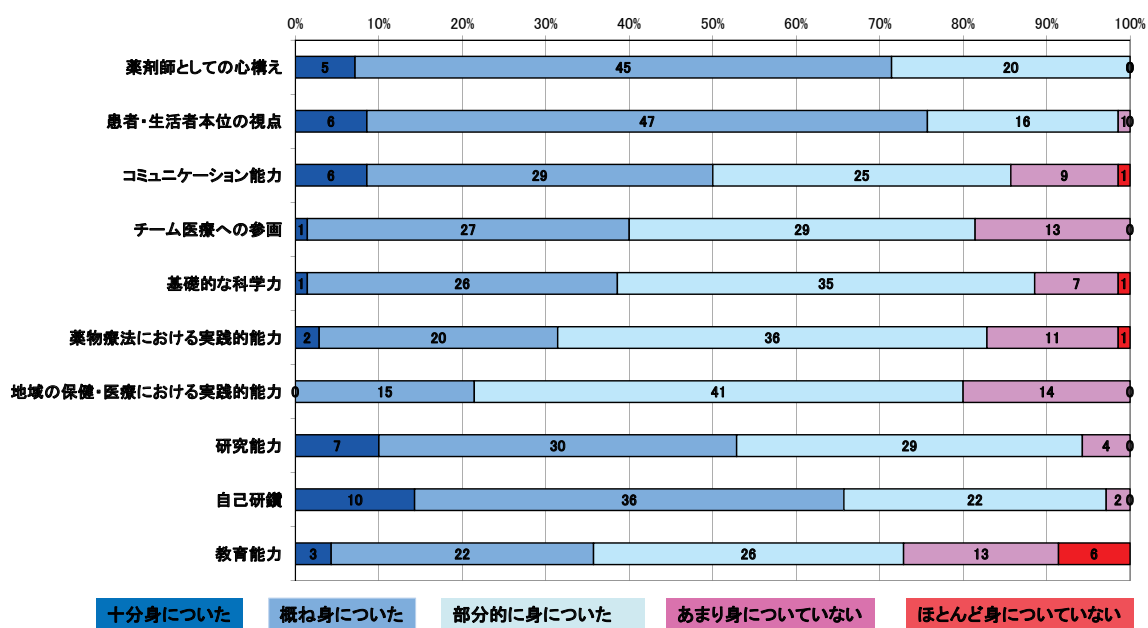
質問2 上記の「薬剤師として求められる基本的な資質」に対するご意見やご感想がありましたら、自由にご記入ください。

なお、ここで得られた情報は統計資料としてのみ用い、個人が特定できるような取扱いはいたしません。

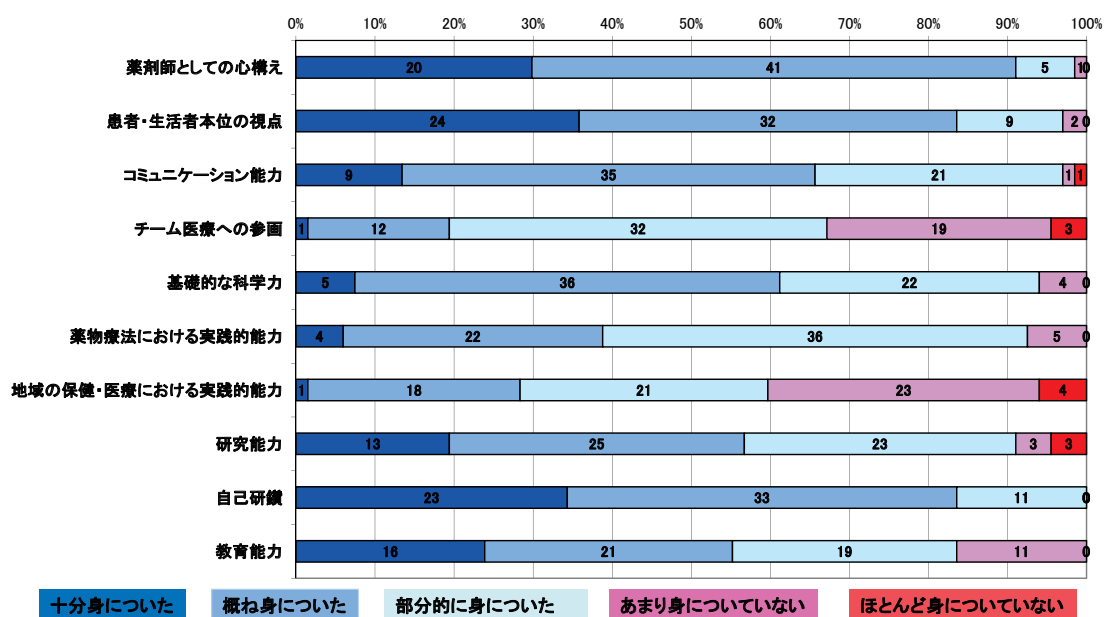
グループ名

氏名

第6回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



第2回全国学生ワークショップ参加者のアンケート結果



質問 2

上記の「薬剤師として求められる基本的な資質」に対するご意見やご感想がありましたら、自由にご記入ください。

第 6 回全国学生ワークショップ参加者の自由記述

- 実務実習での経験により習得に差がでると思います。
- EBM に基づいた内容を適切な言葉で医療者患者に説明できること。
- 他職種に薬学的観点から意見する時にわかりやすく伝えられない、他職種への情報提供の方法を学ぶカリキュラムが欲しい。
- 教育能力の向上についてカリキュラムで実感できない。
- 地域の保健医療における実践的能力及びチーム医療への参画は講義では学習する機会はあるが実践は少なく実務実習場所により偏りがある。
- 患者さんの命に関わる仕事だからこそ医療人として正確な知識を豊富に持つこと、もしくは自己研鑽して身につける意欲があることだと思う。
- 質問 2 の患者生活者本位の視点は多くの知識や経験を必要とするので、学を身に着けることが大変ですが、とても大切な資質だと感じています。
- 人と対話するコミュニケーション力を持つ。
- 患者さんの気持ちを理解し、寄り添うことができる薬剤師像が求められていると思う。
- 薬物治療のスペシャリストとして治療全般をコンサルする能力と、患者及び親族家族など周囲のひとも含めた感情的な部分を見るカウンセリング能力の 2 個。
- かかりつけ薬剤師の要件にも地域貢献があるのでもっと地域の医療や福祉に参加したり学習したりできる機会ができればいいと思います。
- 2 つ考えています。1、他職種との連携するためのコミュニケーションスキル。2、研究（ある程度分野を絞る）。

第 6 回 全国学生ワークショップ実行委員

	井上 裕文	(福山大薬)
	入江 徹美	(熊本大院薬)
	大津 史子	(名城大薬)
	大柳 賀津夫	(北陸大薬)
	賀川 義之	(静岡県大薬)
	亀井 美和子	(日本大薬)
	川崎 郁勇	(武庫川女大薬)
	河野 武幸	(摂南大薬)
	小佐野 博史	(帝京大薬)
◎	塩田 澄子	(就実大薬)
	鈴木 匡	(名市大薬)
	高橋 寛	(岩手医大薬)
	田村 豊	(福山大薬)
	徳山 尚吾	(神戸学院大薬)
	橋詰 勉	(京都薬大)
	長谷川 洋一	(名城大薬)

◎実行委員長

発行 2017 年 3 月

公益社団法人 日本薬学会

薬学教育委員会

日本薬学会第 6 回全国学生ワークショップ実行委員会